神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会・ニュースNo.1

93年10月25日発行　（代表／落合重信）
〒657　神戸市灘区山田町三―一―一　神戸学生青年センター内
電話〇七八（八五一）二七六〇／FAX（八二一）五八七八

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者追悼式（藍那トンネル）、中間報告会に参加を！

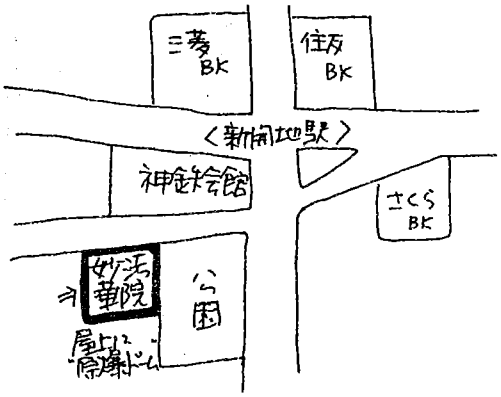
「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」が7月22日、多くの参加者によって発足し、「追悼する会」として初めて追悼式を来る11月21日(日)に事故落盤事故57周年を迎える藍那トンネルで開きます。

一九三六年(昭和11)11月26日未明、藍那トンネル東坑口で長さ五〇尺余の崖の上部が突然崩壊し、コンクリート打ち作業中の朝鮮人労働者三〇名の内、一一名が生き埋めとなり六名が死亡しました。この工事は、昼夜突貫工事で続けられ、事故は午前零時過ぎに発生しています。

また、神戸電鉄敷設工事に携わった朝鮮人労働者は全体で一五〇〇名以上と言われ、一三名もの尊い犠牲者を出しています。

この犠牲者を追悼するための追悼式と、これまでの調査結果の中間報告会を二部にわけて開きます。多くの参加を訴えます。

妙法華院の地図↓　昨年の追悼式(92.11.26朝日新聞より)↑



神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者・追悼式

日時　一一月二一日(日)午前一一時三〇分

会場　神戸電鉄藍那トンネル前

（10時37分新開地発三木行→11時藍那着）

（一一時　藍那駅集合→北西に徒歩10分）

中間報告会

日時　同日　午後二時

会場　妙法華院

（神戸電鉄新開地駅下車、神鉄会館南、地図参照）

7月22日、「追悼する会」発足集会、開かれる

（神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会は、今年四月に市民、団体代表者など各層からなる事務局が出発した。数度の事務局会議をへて去る七月二二日、正式の発足集会をもちました。以下、発足集会の内容を要約して報告します。）

「追悼する会」代表あいさつ

落合重信さん（神戸史学会代表）

私は在日朝鮮人の問題については、以前、一九四八年の阪神教育闘争のことを書いたことがあります。それが、知られることになり在日朝鮮人史の研究者とも交遊ができるようになりました。その後は基本的に部落の歴史を研究しており、それも解放同盟にも全解連にも出入りしますが、党派に属さないで研究をしてきました。

私は、南北に分断されている朝鮮の状況が、日本の中にまでもたらされているということは大変不幸なことであると思います。今回、「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」の代表をお引き受けすることになりましたが、この会の活動が、日本の中でのこのような分断状況をなくしていくためにも役立つような運動であることを願っています。

神戸電鉄の工事では一三名もの朝鮮人が亡くなられているのに、「碑」のひとつもないということは大きな問題だと思います。我々の会の「調査し追悼する」運動に困難なことがあるかもしれませんが、ともにがんばっていきたいと思います。

経過報告

飛田雄一さん（「追悼する会」事務局長）

神戸電鉄敷設工事に朝鮮人が係わりその過程で事故あるいは労働争議が発生しました。若生みすずさんが、一九八四年四月に「神有電鉄工事の朝鮮人土工争議について」（『在日朝鮮人史研究』13号）が先駆的な論文を書かれ、その後、兵庫朝鮮関係研究会の金慶海さんらの調査により、これまで一三名の朝鮮人犠牲者が出ていること、数度にわたって労働争議が起こっていることなどが明らかになってきています。

さらに調査を進めて記録すること、そして追悼の意思を表明することが現在の私たちに課せられた課題であると考え、広く市民に開かれた運動として進めていくことが話し合われました。

「追悼する会」の原則は、「趣意書」（8頁）にあるとおりです。何度かの準備会を経て、このような発足会がもたれることになりましたが、さらに運動の輪を広げ、その集大成として兵庫県下で山陰線あるいは昭和池の工事で犠牲となった朝鮮人の名が石碑に刻まれている例にならって追悼碑を建立したいと思います。

報告「神戸電鉄敷設工事と朝鮮人」

金慶海さん（兵庫朝鮮関係研究会）

神戸電鉄の敷設工事は賃金不払いから大規模な労働争議が数度起こっているが、ほとんど朝鮮人労働者が争議に立ち上がったという特徴を持っている。このことは、敷設工事が朝鮮人労働者を抜きにしては成り立たないことを示しており、事実、三〇〇名とも言われる日本人も働いていたが、これらの日本人は付近の村民が石工などに手弁当で通っていたのであり、争議の参

加者は確認されていない。

また敷設工事中の一九二七年から三六年（三木線）間に五回もの事故が発生しており、朝鮮人労働者一三名の死亡が明らかになった。この犠牲者は充分に弔われていないし、現在も立ち退き問題があるなど、調査と追悼は緊急の課題である。（要約のみ。詳しくは「追悼する会」発行『神戸電鉄敷設工事と朝鮮人《資料集》』参照）

●諸団体、個人のアピール

むくげの会世話人
堀内　稔さん

私は、兵庫県での戦前の在日朝鮮人の労働運動史を研究しており、その関係で当時の新聞記事を調べています。その印象としては、事故などでの死亡記事が多いと思います。見出しで分かる場合も、記事を読んでいると犠牲者の名前に朝鮮人が出てくることもありますが、三分の一くらいが朝鮮人ではないかと思います。今の我々を支えている土木工事などに在日朝鮮人が多くかかわったということですが、神戸電鉄の工事でも一三名が犠牲になっていることはその顕著な例であると思います。調査し追悼する会の運動に共に参加していきたいと思います。

日本キリスト教団兵庫教区・牧師
後藤　聡さん

兵庫県下のトンネル工事に朝鮮人が関わったということをきいています。私は、加古川近くの曽根というところで牧師をしていますが、姫路と高砂の間にあるトンネルも朝鮮人が掘ったという村の噂があるそうです。記録がないようなのですが、掘り起こしの作業をしなければならないと考えているところです。イラン、バングラデシュなどから労働者がきていますが、労働災害にあっても充分な補償がされていないということも聞きますが、この神戸電鉄の朝鮮人犠牲者のことを考えながら現代につながる問題であるということも考えています。

兵庫在日朝鮮人の人権を守る会事務局長
中嶋　博さん

人権を守る会は一九六八年に韓国から亡命してきた丁勲相さんの救援活動を契機に、一九七一年に生まれました。神戸電鉄工事における朝鮮人犠牲者の問題は聞けば聞くほど悲惨な状態でありますが、それがいままで手をさしのべられることなく放置されてきたということは、日本人の問題として責任を痛感いたします。井上ひさしさんが「わびの原点」（毎日新聞／月曜日）で、一九八八年アメリカ大統領令によって公式の謝罪が行なわれたということがありますが、それをとりあげて、アメリカという国の詫びの原点についてふれ、なぜそれが日本にないのだろうかと書かれていました。われわれ日本人が政府に要求していくことも大切ですが、われわれ自身が運動を進めていくとくことがまさに「原点」としてこの運動に事務局として関わ

れらせていただいています。今後ともいっしょにがんばっていきましょう。

兵庫県朝鮮人強制連行真相調査団事務局長
成文慶（ソンムンギョン）さん

朝鮮人のひとりとして、この「追悼する会」の運動に努力を払われているみなさまに敬意を表します。私は、強制連行調査の活動に参加しながら、先日は藍那トンネルの現場にも行きました。なぜ朝鮮人が故郷をあとにしてこの神戸電鉄でも働いていたかは、朝鮮が植民地として日本に支配されていたからです。その過程で土地調査事業などがあり日本への渡航を余儀なくされたからです。また安い労働者として朝鮮人が動員されたということです。「追悼する会」の運動が、このような歴史を正しく見つめる契機となり、それが朝鮮と日本の親善友好の促進と、アジアの繁栄のためにつながることを願っています。落合代表が日本には三八度線がないんだからと言われましたが、わたしもそう思いますし、この運動も朝鮮の統一へ向っての動きにつながるものであると思います。ともに手を携えて進めていきましょう。

兵庫朝鮮関係研究会代表
徐根植（ソグンシク）さん

私も七年ほど前から山陰線の余部鉄橋などの工事における朝鮮人労働者のことを調べていて、朝鮮人犠牲者の七名の名前が刻まれている招魂碑にも出会いました。昔のひとはなぜ石碑を建てたのかと考えてみましたが、後世に伝えようとしたことでしょう。私たちは、神戸電鉄の朝鮮人犠牲者の石碑を建てようとしていますが、歴史的な事実を残すという意味で必要ですし、もっと普遍的な問題として人命を無視した無謀な工事をしてはいけないということを伝えるという意味でも必要です。日本の近代の鉄道工事で多くの犠牲者が人命よりも工事が大事だといわんばかりのことが行なわれ、そのなかで特に朝鮮人は犠牲者がでればまた連れてきて補充するとくようなかたちで工事が行なわれた面もあります。犠牲を強いるようなひどい工事は、朝鮮人であろうが日本人であろうがしていけないということを、現在の我々が確認し、それを後世に伝えるという趣旨で碑を建てることが大切であると考えています。

長田マダン会
林久仁恵（イムクイネ）さん

この神戸電鉄のことを新聞で知り、また今日ここでお話を伺って、私たちは使い捨てにされる民族ではありません。この日本の鉄道の一部はこのように朝鮮人が作ってきました。私たち朝鮮人が犠牲を強いられた被害者として何かをしてもらうというのでなくて、私たちはあたりまえのことをあたりまえに主張していくことが、この神戸電鉄の朝鮮人犠牲者の追悼碑を作っていく近道になるのではないかと思っています。ともに進めていきましょう。

兵庫県韓国人三民会
李相泰（イサンテ）さん

今年の四月の三民会の例会で、金慶海さんに来ていただいてこの神戸電鉄のことを学びました。日本の鉄道の枕木一本一本が在日同胞ひとりひとりなんだというようなことを聞かされてきました。よくわかりませんでしたが、在日同胞の数多くの人が犠牲になっていたということが分かりました。私のアボジも神戸にいて、土木工事で働いたり、風呂屋の三助をしたりしていましたが、まさにわれわれ在日二世の両親が祖父母が、鉄道工事現場などで働き、犠牲にな

ったということです。いまの社会を築いた礎でもあると思いますし、そういう人々の冥福を祈り、二度と繰り返さないように、そして三世四世に伝えていくための努力を続けたいと思います。

青丘文庫代表
韓晳曦(ハンソクヒ)さん

私は一九二六年に朝鮮から大阪に来ましたが、大阪の猪飼野で長く暮しました。青丘文庫で行なわれている在日朝鮮人運動史研究会（関西部会）でも、地域の在日朝鮮人の歴史を研究していますが、調査し記録することは多くの努力を必要とすることですが、非常に大切な作業であることを痛感しています。神戸電鉄の朝鮮人犠牲者のこと、そこで行なわれた労働争議のことなどを「追悼する会」で調査・記録することが、全国各地で続けられている歴史を掘り起こす作業と連携をとりながら、在日朝鮮人の歴史の全体像を明らかにすることにもつながることを望んでいます。

韓学同兵庫
鄭洋伸(チョンヤンシン)さん

私自身がこの神戸電鉄敷設工事の朝鮮人犠牲者のことを知ったのは昨年一一月の新聞記事が初めてです。私の父は藍那トンネルの近くに住んでおり、昨年の追悼式にも参加してそのときの新聞の写真にも写ったりしていたので特にその記事が印象に残っていました。戦前の歴史で苛酷な条件のもとで多くの朝鮮人が労働を強いられましたが、神戸電鉄の敷設工事もその一例だと思います。私たちは、一世が歩んできた歴史を知ることが必要であり、それが私たちの現実を切り開いていくことにつながるものと思います。この運動に共に参加していきたいと思います。

韓青／韓統連
高祐二(コウイ)さん

私は高校の三年間、神戸電鉄で通っていたんですけど、よくこんな山にレールを敷いたなと思っていたんですが、それがわたしたちのアボジ、ハラボジであるとは知りませんでした。いま六甲の北側には住宅地が広がっており多くの人々が利用している神戸電鉄ですが、この敷設工事に朝鮮人が働いたということを広く知っていただきたいと思います。そして、犠牲となって供養もされず、無念の思いをされている朝鮮人犠牲者を追悼する活動に積極的に参加していきたいと思います。

高校教師
徳富幹生さん

私は高校の社会科の教師をしていますが、日本と朝鮮の問題に関心をもっているものです。先程の高君の通っていた鈴蘭台高校の教師もしていて今日高君と久しぶりにお会いしました。水俣の出身で、水俣といえば窒素ですが、その前身の朝鮮窒素株式会社は、朝鮮で多くの労働者を使役したことでも有名で社会科の教師としてそのようなことにも関心をもっています。神戸電鉄の朝鮮人労働者のことなど、地域の在日朝鮮人の歴史を掘り起こすことは大切なことだと考えており、私もそのため努力をしたいと思います。

神戸電鉄有志

私は、神戸電鉄の先輩から敷設工事で犠牲者がでたということをすこしは聞いていましたが、新聞記事を読んで、やはりそうだったのかと思いました。神戸電鉄で働くものとして、当時賃金も貰えずに労働争議を起こした朝鮮人たち、そして死んでまでも人間扱いされないということは、大きな問題である思います。微力ですが

できるだけのお手伝いをさせていただきたいと考えています。

行動提起

全隆男（チョンユンナム）さん（兵庫県韓国人三民会）より「追悼する会」の今後の行動提起が次のように提案され、参加者の拍手で確認された

一、調査活動の具体化（調査チームを発足させる）。

二、賛同人を広く募る。

三、神戸電鉄㈱に資料の提供を依頼する。

四、「追悼碑」建立をめざす。

五、当面、一一月二一日(日)――藍那トンネル事故五七周年――に追悼集会、中間報告会に全力で取り組む。

神戸電鉄本社を訪問し、要望書を出しました

去る九月九日、落合重信代表をはじめ飛田雄一事務局長、金慶海、李相泰、全隆男事務局員の五名が神戸電鉄本社を訪問し、

① 神戸電鉄㈱が所有している神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者に関する資料の提供等、当会の調査活動への協力

② 敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人労働者の「追悼碑」の建立への協力

以上の要望書を提出した。

神戸電鉄側からは加藤義久庶務課長が対応され、事実関係を客観的に調査しているならば協力し資料も提出したいとの回答があった。

さらに落合氏から、「神戸電鉄50年史には朝鮮人労働者が敷設工事に係わった記述が一ヶ所もないのは理解できない。今後の友好関係を築いていく上にも事実をきちんと記載していく必要がある」と述べられた。

第二次訪問

去る九月三〇日、飛田雄一事務局長、金慶海、全隆男事務局員の三名が神戸電鉄本社を訪れ、先に提出した要望書の回答を聞いた。

神戸電鉄側から加藤義久庶務課長と井上進次庶務係長が同席し、加藤課長より、①調査したが朝鮮人労働者関係の資料がなかった、②50年史編纂のときの資料は新聞の切り抜きやコピーが主であった、③50年史編纂のときの資料は本社にあるので、何時でも見せることができる、④神鉄の谷上（たにがみ）資料室の分も事前に言ってもらえれば見せることができる、⑤追悼碑建立に関しては具体的な提案があれば検討してみたい、との回答があった。

飛田事務局長より、「改めて日時を連絡するので、本社および谷上資料室の資料を見せていただきたい」との要望を述べたところ、加藤庶務課長より「わかりました、ご協力いたします」との即答があった。

（全隆男記）

<事務局日誌>

1992.11.14　藍那トンネル前で追悼集会
1993. 4. 1　第1回事務局会（会の名称、趣旨、事業等を討論）
4.16　第2回事務局会（活動方針等を討論）
5.13　第3回事務局会（会費等を決める）
6. 3　第4回事務局会（発足集会、『資料集』のことなど相談）
6.24　第5回事務局会および現地調査
7. 8　第6回事務局会
7.22　「追悼する会」発足集会、『資料集』発行
7.31～8.1　第4回「強制連行‥‥全国交流集会」(奈良県)神戸電鉄の件発表（事務局／高木伸夫）
9. 2　第7回事務局会（調査部の設置など討論）
9.11　ニュース編集会議
9. 9　神戸電鉄本社訪問（9月12日付『朝日新聞』に報道される）
9.28　第2トンネル付近調査活動
9.30　神戸電鉄本社再訪
10. 7　ニュース編集会議
10.11　調査部会議
10.14　第8回事務局会

広告です

「追悼する会」編　1993年7月22日発行

神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者《資料集》

B5 20頁 カンパ300円

新聞記事、写真を多く収録し、労働争議、労働災害についてその概要を述べている。
詳細な「関連年表」(1926～38年)を付している。
※ 申し込みは事務局まで

賛同のお願いです

「追悼する会」では広く賛同者、団体を募っています。
個人 3,000円
団体 6,000円
送金は、郵便振替で！
<神戸1-41243 追悼する会>

よびかけ

日々ご健勝のことと存じます。

神戸電鉄㈱の敷設工事の過程で多数の朝鮮人労働者たちが、苛酷な労働状況のもとで働き、この工事の期間中（一九二七～二八年および一九三六～三七年）一三名以上の尊い生命が犠牲になったという事実が最近明らかになりました。

このような事実に鑑み、彼ら朝鮮人労働者たちの実態を調べ、一三名の朝鮮人犠牲者を追悼することが、日本と大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国とのこれからの友好を築く一助にもなるとの思いから「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（仮称）を発足させようと思います。

この会は、上記の趣旨に賛同される方で、国籍、政党等は一切問わず、個人、団体が加入できるものといたしたいと思っています。多くの方々の賛同・参加をお待ちいたします

一九九三年七月

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

呼びかけ人代表　落合　重信

呼びかけ人

落合　重信　神戸史学会代表
本岡　昭次　社会党参議院議員
浦井　洋　元共産党衆議院議員
柏原　淳江　神戸ＹＷＣＡ総幹事
新間　智照　アムネスティー神戸
堀内　稔　むくげの会世話人
麻田　光広　在日朝鮮人・兵庫人権セミナー
河村宗治郎　戦争を起こさせない市民の会代表
上垣　正明　兵庫在日朝鮮人の教育を考える会代表
飛田　雄一　神戸学生青年センター館長
北里　秀郎　日本キリスト教団兵庫教区議長
宮崎　定邦　兵庫在日朝鮮人の人権を守る会代表
初瀬　龍平　神戸大学教授
家　正治　神戸外国語大学教授
滝沢　秀樹　甲南大学教授
領家　穣　追手門学院大学教授
若生みすず　在日朝鮮人運動史研究会関西部会会員
成文　慶　兵庫朝鮮人強制連行真相調査団事務局長
呉相現　兵庫県韓国人権益擁護委員会委員長
金守良　神戸朝日病院院長
李鐘順　兵庫在日外国人保護者の会代表
朴鐘鳴　錦繍文庫理事長
徐根植　兵庫朝鮮関係研究会代表
権誠治　長田マダン実行委員長
林茂男　兵庫県韓国人三民会会長
韓哲曦　青丘文庫代表
黄光男　兵庫民族差別と闘う連絡協議会代表
慎鏞浩　コブクソン会会長
郭賢鶴　近畿朝鮮人教職員会代表
高龍秀　甲南大学講師
鄭承博　作家
金正郁　陶芸家

（93年7月22日現在）

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会・ニュースNo.2

94年4月15日発行（代表／落合重信）100円

〒657 神戸市灘区山田町三―一―一 神戸学生青年センター内

電話 〇七八（八五一）二七六〇／FAX（八二一）五八七八

「追悼する会」は、昨年7月の発足以来、神戸電鉄本社に所蔵資料の調査（社史編纂のときの資料、谷上資料室）、また時には舞鶴まで出かけて体験者の聞き取り調査など、積極的に活動を進めてきました。その中で、韓国に一九二七年の東山トンネル事故と、一九三六年の藍那トンネル事故の犠牲者の遺族が韓国におられること、当時直接朝鮮人労働者を雇用していた下請の日本工業合資会社と当時の神有電鉄（現在の神戸電鉄㈱）との関係など、新たな事実がわかってきています。今号では、それらの新たな事実についてレポートをいくつかまとめてみました。

また、神戸電鉄㈱に対して、去る3月24日、9頁のような、神戸電鉄として追悼の意を表し、追悼碑を建立することを要求する「要望書」を提出しました。それは、私たち「追悼する会」の事務局が、調査の過程で一三名の朝鮮人労働者が犠牲となっていること、そして当時、その工事を実際に請け負ったのが日本工業合資会社であったとしてもその小林一族と現在の神戸電鉄㈱との間に密接な関係があり、神戸電鉄としても「下請の仕事だったから…」ということではすまされないことではないかと考えたからです。

私たちは、今年の8月、神戸電鉄大池駅の興隆寺で行なわれる神戸電鉄関係者の法要に遺族を招待することを要求していますが、神戸電鉄がもし招待しない場合には、「追悼する会」として招待したいと考えています。いずれにしても今年は、「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」の運動も大きな山場を迎えることになると考えています。

★　★　★

当面の取り組みとして、藍那（あいな）トンネルの事故を目撃された李秉萬（リビョンマン）さん（舞鶴在住）をお招きして、当時のお話を聞く会を開きます。

李秉萬さんは当時小学生で鈴蘭台に住んでいましたが、李さんのお父さんは、神戸電鉄敷設工事のときに労働者として働いていました。一九三六年11月25日の藍那トンネルの落盤事故では、6名の朝鮮人が犠牲となりましたが、李さんは、その事故の現場にかけつけ、救助活動を目撃されています。（6頁の李秉萬さんの聞き取り参照）

「囲む会」では、あわせて、これまでの「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」のその後判明した調査の結果を報告いたします。

●神戸電鉄藍那（あいな）トンネル事故の目撃者●

李秉萬（リビョンマン）さんを囲む会

◆とき　5月12日(木)午後7時

◆ところ　神戸学生青年センター／Tel 078（851）2760

（阪急六甲下車、北東徒歩2分）

藍那トンネル落盤事故から57年
「追悼する会」の追悼式・中間報告会開かれる　93年11月21日

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会は、昨年7月22日発足後、会としては初めての追悼式を11月21日に神戸電鉄藍那トンネルで行ないました。以下に追悼式、中間報告の内容を要約して報告します。

11月22日午前10時、神戸電鉄新開地駅前の妙法華院から追悼隊が出発し、神戸電鉄本社前でサムルノリが行なわれました。続々と集まる参加者と共に神戸電鉄で一路藍那駅に向い、藍那駅で待ちかまえていた新たな参加者を加え、追悼隊を先頭に朝鮮人労働者11名が生き埋めとなり、内6名が死亡した（1936年11月25日）藍那トンネルに到着。

藍那では雨が降っていたので、複線化のために工事中のトンネルの中で急遽追悼式を行なうことになった。追悼式は飛田事務局長の司会で始まり、「追悼する会」の落合重信代表が追悼文を朗読しました。

追悼文

陽鮮（ひ）やかでうるわしい豊な国朝鮮に生まれ育った若者であったあなた方が、神戸電鉄敷設工事に動員され、藍那トンネル工事の事故で犠牲になったのは一九三六年十一月二十五日のことであります。

このトンネル工事は、民族的蔑視と劣悪な労働条件の下で行なわれ、突然の大音響とともに高さ十五メートルのがけが崩壊し、朝鮮人労働者十一名が生き埋めになり、六人が死亡、五人が重軽傷を負ったと記録されています。

しかし、犠牲になった六人の遺骨の行方はいまだもって不明のままで、神戸電鉄の社史には一行の言及もなく、周辺寺院の過去帳にもなんらの記述もないまま、虫けら同然の扱いで、人間性は抹殺され五十七年の歳月が流れました。

当時、きびしいこの神戸電鉄敷設工事に、千数百人の朝鮮人が関わりました。

これは日本の朝鮮植民地支配によってなつかしいふる里を追われ、糧を得るため日本各地の炭坑、鉱山、工場での労働土木工事などに従事させられ、人間としての尊厳を奪われ牛馬のごとく酷使された実態と切り離しては考えられません。　私たちは、日本の近代化と今日の繁栄が、あなた方の貴い血のにじむ犠牲を抜きにしては語り得ないと思っています。　私たちは、過去の歴史の真実を闇に葬りさることなく真相を明らかにし、二度と再び同じような罪過が繰り返されないよう教訓とし、両国の友好関係の絆が更に強められるよう努力しなければならないと決意を新たにしています。

犠牲者の皆さんのご冥福を心より祈念いたします。安らかにお眠り下さい。

一九九三年十一月二十一日

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

代表　落合　重信

続いて妙法華院の新間智照住職が読経されるなか、参加者が続々に拝礼(焼香)を行ない、最後に神有・三木電鉄敷設工事で死亡した13名の朝鮮人労働者を追悼するサムルノリがトンネル内に響きわたりました。

午後2時からは場所を変え、妙法華院で中間報告会開き、「追悼する会」からこれまでの調査結果を説明、更に調査を進め、追悼碑を建立するために運動を盛り上げよう、と確認した。

約40人が参加した朝鮮人労働者の追悼式
＝神戸電鉄藍那トンネルで

「何も知らずに3年間も神鉄に乗って」
―追悼式に参加して―

神戸電鉄敷設工事に多くの朝鮮人が関わり、多数の犠牲者が出たということを知って、これまで何も知らずにいたことを詫び、私にも何か出来ないかと考えました。その時、事務局の李さんから追悼会の日に四物(サムル)ノリとパレードをしないかと声がかかり、それなら出来ると思い仲間に相談しました。是非やりたいという長田マダン、韓青同のメンバー、天満から駆けつけた李美鈴、追悼式の当日は他の公演があって参加はできないけれど「私たちがやるべきことだと思う。しっかり頑張るように」と言った「サラムノリ」の人たち、みんなの気持ちを本当に嬉しく思いました。

しかし当日は雨……。楽器を雨に濡らすのは心配だったけれど、私たちのパレード隊が妙法華院を出発する頃には雨は止み、四物(サムル)を打ち鳴らすことができました。そして「今日はしっかりとやってくれよ」と天から声が聞こえました。

神鉄に乗り、新開地から藍那まで窓から雨の降る景色を見ながら、私は何も知らず高校生活の三年間、この電車に乗って通っていたのだなと思い、何か申し訳ない気持ちになってしまいました。そして、この鉄道は私たちの同胞がつくったんだと、多くの同胞に教えたいと思いました。さまざまな思いのなかで藍那に着き、やっぱりその時雨は止んでいました。

藍那トンネルに着く頃、雨が降りだし、トンネルの中で演奏することになりました。私は十三名の亡くなった方たちにこの四物(サムル)ノリの音や私たちの思いが届くように演奏しました。

私たちはそんなに巧くないけれど、少しは供養できたのではないかと思います。

最後に、多くの同胞にこのことを伝え、一日も早く追悼碑が出来るように祈ります。

(林(イム)　久仁恵(クィネ))

●●●●

神戸電鉄谷上資料館を訪れて

さる一月二〇日、追悼する会のメンバー四名で神戸電鉄の谷上駅にある神戸電鉄谷上資料室を訪れた。

資料室には有馬線や三木線の営業許可証、総会報告書、労働争議に関する新聞資料、社内誌、関連雑誌などが展示されている。

総会の資料を調べてみると、神有電鉄㈱と三木電鉄㈱の筆頭株主は、この工事を請け負った日本工業合資会社の小林長兵衛社長と小林秀雄親子であることが判明した。

このことによって、日本工業合資会社の小林が単なる下請会社の社長ではなく、神戸電鉄の中枢を占める経営陣のひとりであることが明らかになった。

この資料室は誰でも自由に見学することができる。入場料は無料である。

日本工業合資会社の小林親子と神有、三木電鉄

小林長兵衛は一八七二(明治5)年八月、滋賀県東浅井郡虎姫町に生まれた。阪鶴鉄道（現、JR福知山線）及び、黒部渓谷(宇奈月)の発電土木工事に従事し、一九〇六(明治39)年には朝鮮で小林組を創立。同地で各種の建設工事に携わった。また、咸鏡南道の利原鉄山を買収、経営すると同時に朝鮮マグネシヤ会社も経営。一九一四(大正3)年に日本工業合資会社を設立した。

一九二六(大正15)年三月二七日、北摂平野の開発と、「天下の泉郷」と称された有馬温泉への遊客誘致、小部（現、鈴蘭台）の別荘経営を目的に神戸と有馬間を結ぶ鉄道敷設工事として神戸有馬電気鉄道株式会社が発足する。設立総会では発起人のひとりである神戸財界の名士、川西清兵衛が経営不安から一万株の予約取消しを申し出るというハプニングがあったが、その際、全線の建設工事を請け負っていた小林長兵衛が一万株を引き受けている。

小林長兵衛は「この工事を請負い、その工事費を以て金を貰わず、株券に換えて神有電鉄の大株主になろうという契約」があったと言われ、一九四一(昭和16)年六月には七代目の社長に就任している。しかし息子の小林秀雄が一九三〇(昭和5)年に取締役に就任していることから、当初から小林親子が経営に深く関わっていたことがわかる。

小林長兵衛は一九二六(大正15)年の設立の際、神戸有馬電気鉄道株式会社総持株一〇万株（九一三名）の内、五〇〇〇株（総持株の5％）、息子の小林秀雄は二〇〇〇株（同、2％）を保有、個人持株では最高位を占めている。

また、一九三六(昭和11)年六月に設立された三木電気鉄道株式会社の第一回総会資料では、総持株一万二〇〇〇株（一五三名）の内、神戸有馬電気鉄道株式会社が二六〇〇株（21％）、小林長兵衛は一〇〇〇株（8・3％）、小林秀雄は一一四〇株（9・5％）を専有していた。

小林長兵衛は一九四三(昭和18)年四月に死亡し、実子小林秀雄ら三名の常務取締役が合議制で経営に当たり、小林秀雄は一九四六(昭和21)年四月から一九六〇(昭和35)年五月まで、九代目の社長に就任している。

●●●

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者に関する／聞き取り調査の報告

「追悼する会」が発足した昨年の夏以降、当時の神鉄の事故を知る二人の方から貴重な話を聞くことができました。おひとりは神戸市垂水区在住の藤井包子（かねこ）さん。もうおひとりは京都府舞鶴市在住の李秉萬さんで、お二人とも当時のことを鮮明に記憶されており、事故の生々しい様子を窺い知ることができました。

＃　＃　＃

藤井さんは、「追悼する会」のことが朝日新聞に報道されたことから、会に当時のことを書いたお手紙をくださりました。李秉萬さんは、兵庫朝鮮関係研究会編『在日朝鮮人90年の軌跡―続・兵庫と朝鮮人―』の出版記念会に参加され、その時少しお話をうかがったが、その後お手紙をいただき舞鶴に聞き取りに行くことになったのです。

三木線工事の爆破で朝鮮人がたくさん死んだ
―藤井包子さんの手紙より―（抜粋）

先日朝日新聞紙上で拝見しました。私は一九三五年頃から二〇余年鈴蘭台に住みました。当時、父が「三木線工事の爆破で朝鮮人がたくさん死んだ」と言って帰ってきました。私は小学校の一年生で、一九三六年頃だったと思います。

鈴蘭台の駅前で合同葬が行われましたが、日本人の葬式と違うので、それが強烈な印象として残っています。ちょうど舎利容器のような形で棺をのせ、四隅から飾りが垂れ下がりみこしのように担いで行きます。その後から「アイゴー、アイゴー」と大きな声で泣きながら続いていた様子が今でも思いだされます。

「アイゴー、アイゴー」と大きな声
―藤井さんからの聞き取り―

――目撃した事故についてお聞かせください。

当時、私の父が「三木線工事の発破の爆破で朝鮮人がたくさん死んだ」と言ったことを憶えています。私は小学校の一年生で、一九三六年頃だったと思います。

――事故後の葬儀のことをよく記憶されているそうですが。

ええ、鈴蘭台の駅前で葬儀は行われました。当時、駅前は経営地と呼ばれる神鉄の所有地で、盆踊りや映画会がよく行われていました。日本人の葬式と違うので、それが強烈な印象として残っています。ちょうど舎利容器のような形で四隅から瓔珞（ようらく）の飾りが垂れ下がった棺を何人かで担いでいました。その後から白装束の人たちが「アイゴー、アイゴー」と大きな声で泣きながら続いていた様子が今でも思いだされます。

――どれくらいの人たちが葬儀に参加されていましたか。

何人かは憶えていませんが、見物人を含めるとたくさんの人たちが集まっていたと思います。

――日本人の犠牲者はいたのですか。

そうしたことは聞いていませんが、「発破の事故」と聞きましたので監督の

日本人はいたと思います。

――事故に遇った人たちがどこに住んでいたのかご存知でしたか。

当時、鈴蘭台の南外れの川沿いに朝鮮人部落があり、私の同級生が何人かそこに住んでいました。事故にあった人たちがそこに住んでいたなら、学校でも大きな騒ぎになったと思いますが、そんなこともありませんでしたし、おそらく飯場で暮らしていたのだと思います。

犠牲者は一三名だけではない
―李秉萬さんの手紙より―（抜粋）

出版記念会に参加させていただきました。その時に三木電鉄藍那トンネル工事中の落盤事故の記事がありましたが、この中の三木線工事に私の父とその兄弟三人や家族が土木労務者として従事したのです。

事故が起こったとき私は小学生でしたが、藍那トンネルでの犠牲者を私はこの目で見ました。犠牲者は一二人や一三人ではありません。その犠牲者の取扱いについての会社と労働者側とのやり取りも、幼い時でしたが、いまだに私の耳にこびり付いて残っています。また、労賃についての解放後の話し合いも交渉の途中で終わっていると思います。

男も女も総出で掘り起こした
―李秉萬さんからの聞き取り―

――いつ頃鈴蘭台に行かれたのですか。

大阪から、小学校の四年生のときで、冬の頃だったと思います。鈴蘭台小学校に六年生頃までいました。

――当時の様子をお話してください。

学校の昼休み時間、キムチばっかりの弁当だったので級友たちに見られるのが嫌で弟と二人で国旗台の下で冬の寒さに震えながら食べていました。ある時、担任の先生がコップにお茶を注いでくれて……、その時の先生の顔が神様に見えました。全校で朝鮮人は私と弟の二人だけでした。学校では黒川光太郎という通名でした。

――その当時に目撃された三木電鉄の事故についてお話ください。

工事は鈴蘭台近辺から始まったのですが、工事が進むにつれて私たちの住むバラックも移動しました。それで朝は五時半に起きて、弟と二人で線路沿いに学校まで一時間半かかって通いました。帰りは行きと同様にすっかり暗くなっていました。

当時のバラックというのは床のない藁敷きだけの、とても人間の住むところではありませんでした。鈴蘭台から工事が始まって、最初のトンネル工事の際一人か二人が事故に遇ったようです。三つ目か四つ目の事故（一九三六年一一月二五日の藍那トンネル事故と思われる）のときはトンネルの両方が塞がるという大きなもので、男も女も総出で、スコップや素手で掘り出しました。やっとの思いで掘り出したときはもう冷たくなっており、遺体を抱いて「アイコー、アイゴー」と泣き叫んでいました。怪我をした人たちは周囲に病院がないことからトロッコに乗せて街まで汗だくになって運びました。

――亡くなった人たちや怪我をした人たちはどこから来ていたのですか。

飯場の所帯は全部で五つか六つ、二〇人から三〇人はいました。監督だけが日本人で偉そうに命令ばかりしていました。

炭坑から逃げてきた人がほとんどで、独り者が多かったようですが、新婚さんでひとり犠牲者がいてほんとうにかわいそうでした。

―事故直後の会社とのやりとりについてはどうでしたか。

アボジとアボジの弟が中心になって、朝鮮に家族がいるだろうから遺骨を送ってあげなければ、ということで、会社側に掛け合ったそうです。しかし会社側はそんな金はないと突っぱねるし、結局物別れになって、三日間工事は中断したそうです。アボジは会社から交渉を扇動したとの理由でクビを言い渡され、神戸の脇浜に移り住んで川重（川崎重工業）で働きました。まあ、今になって考えても、安全性を全く無視した危険な労働に従事させられた、ということですね。

―事故のその後の様子はどうでしたか。

解放後、私が除隊した一九四六年に、神有電鉄に事故の責任と補償を求めて交渉に行きました。外にもいろいろと朝鮮人がかつて働いていた企業を回ったのですが、真っ先に交渉に行ったのが神有電鉄でした。交渉は金ビョンヒョンと、そのアボジで当時の朝鮮人会の西神戸地区の責任者であった人（名前不祥）と私の三人で行いました。当時、湊川にあった事務所で神有の専務と話し合いましたが、「補償しなければならないのはわかるが、当社は赤字で、補償するだけのお金がない。なんなら貴方がたで経営してくれてもよい」という回答でした。私たちは、「断固補償を要求する」という姿勢で臨みましたが、なにぶん戦後の混乱期だったし、その後交渉が朝鮮人連盟に移行**したこともあって、三回交渉しただけで途絶えてしまいました。あの時、もし私たちが神有を譲り受けていたら……（笑）。でもすぐにGHQに接収されたでしょうが。

**編集部注　一九四五年九月六日に神戸で〈兵庫県朝鮮人協議会〉が結成され、ほとんど同時に大阪を中心に関西、中国地方の代表約六〇名で〈朝鮮人連盟関西準備委員会〉が結成されている。また、民族的な大同団結のため、九月一〇日には〈在日本朝鮮人連盟中央結成準備委員会〉〈同中央結成準備常務委員会〉が構成された。兵庫では同年九月上旬に金海健が中心となって〈兵庫県朝鮮人委員会〉の結成が進められ、一方、一〇月上旬に〈在日本兵庫県朝鮮人協会〉、一一月上旬に〈在日本朝鮮人連盟兵庫県本部〉、一二月二日に〈在日本朝鮮人連盟兵庫県本部東神戸支部〉が結成されている。

声なき声を明らかに
―これまでの調査活動を振返って―

普段何気なく利用している神戸電鉄で多くの朝鮮人が犠牲になっていたという事実は、私にとって耐えがたいものでした。慣れない異国で苦しい労働の毎日であるばかりか、命まで落とした朝鮮人同胞の無念と望郷の想いは、想像を絶するに余りあります。

これからも調査活動を通じて歴史のなかに埋もれている事実を検討し、声なき声を明らかにしていきたいと思います。

（高祐二）

犠牲者の遺族がわかりました
「追悼する会」では訪韓し、
8月の追悼行事遺族が
参加できるよう努力します

「追悼する会」では、調査活動の一環として、敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人労働者の遺族を探していましたが、この度、13名の犠牲者のうち3名（内ふたりは父子で犠牲）の遺族2名がわかり、「追悼する会」事務局では、その遺族に去る4月4日手紙を出しました。会としては、5月中には訪韓し、遺族からの聞き取り調査を行なう一方、8月の追悼行事への遺族の参加を実現させるための努力を行ないたいと思います。

敷設工事の過程での犠牲者は、別紙のように13名が新聞記事により確認されています。今回遺族が判明したのは、④黄範寿（ファンボンス）さんの孫・黄善済（ソンジェ）さんと、⑨金鳳斗（キムボンドゥ）さんの子であり⑩金東圭（キムドンギュ）さんの弟である金漢圭（キムハンギュ）さんの二人です。黄範寿さんは一九二八年1月15日の神戸市兵庫区の東山トンネルの落盤事故で犠牲となり、金鳳斗さん金東圭さん父子は、一九三八年11月25日の藍那トンネル事故で犠牲となられました。

現在、新聞記事のより明かとなっている神戸電鉄敷設工事の過程での犠牲者は左の表のとおりです。会として更に調査を進めますが、新しい情報、手がかりなどがあれば、ご連絡下さるようお願いします。

神戸電鉄敷設工事で犠牲となった朝鮮人たち（13名＋α）
（神戸新聞と朝日新聞より作成）

【死亡者名簿】

1．1927年8月1日　2名　山田町下谷上　竹藪切取り工事中に土砂崩壊
- ①韓　啓　文　42歳
- ②趙　鳳　珠　30歳

2．1928年1月15日　2名　神戸市東山町4丁目東山トンネル東入口で夜間作業中
- ▲③金　相　燮　26歳　慶尚北道栄川郡上里面古頃羽
- ●▲④黄　範　寿　31歳　慶尚南道蔚山郡農所面

3．1928年5月7日　2名　山田村原野の字奥谷　石が墜落　下敷
- ⑤朴　鍾　述　27歳
- ⑥金　永　得　26歳

4．1928年10月23日　1名　烏原貯水池の奥　トロッコ同士の衝突
- ▲⑦姜　太　龍　26歳

5．1936年11月25日　6名　山田村藍那トンネル東入口　土砂崩壊
- ▲⑧朴　南　槿　32歳　慶尚北道高霊郡雲水面黒樹里
- ●▲⑨金　鳳　斗　47歳　慶尚南道固城郡下二面月興里　父子
- ●▲⑩金　東　桂　25歳　同上　父子
- ▲⑪李　命　福　24歳　慶尚北道盈徳郡南亭面鳳田洞
- ▲⑫姜　学　守　35歳
- ▲⑬陳　南　述　30歳

※注　▲印はひよどり越斉場の台帳で確認、●印は本籍地で確認

【重傷者名簿】

1．1928年10月23日　4名重傷　烏原水源地の奥　県立病院に収容治療
- ①許　石　道　21歳
- ②田　慶　泰　29歳
- ③　？
- ④　？

2．1929年1月10日　1名重傷　下谷上　神有電鉄軌道内で作業中
- ①　？　（32歳　中村次郎）

3．1936年11月25日　5名重傷　山田村藍那　林田区の兵庫病院に収容治療
- ①朴　潤　垣（36歳　木村文吉）
- ②？　田　潤（23歳　安田文吉）
- ③変　寅　燦（23歳　太田一郎）
- ④趙　敬　乞（27歳　田中次郎）
- ⑤金　炳　慶（28歳　上村　某）

神戸電鉄㈱に要望書を出しました

「追悼する会」ではさる3月24日、神戸電鉄㈱の一本松康雄社長あてに、以下のような要望書を出しました。神戸電鉄は毎年、8月に北六甲の神戸電鉄大池駅近くにある興隆寺（通称／聖天さん）で、神戸電鉄関係の犠牲者のための法要を行なっています。会としては、現在の時点で13名の朝鮮人労働者が明らかになっているので、かれらの名前を法要の際に銘記して、遺族をその法要に招待することが必要であり、さらに、神戸電鉄は、朝鮮人犠牲者の存在を無視してきたわけですから、その責任をとる意味でも自らが建立碑を建立することを要望しました。

西安　胡主　圭吉

神戸電鉄株式会社　社長　一本松　康雄　様

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会　代　表　落合　重信

日々ご健勝のことと存じます。

私たち「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」は、昨年七月の発足以来、調査活動を続けております。この間、貴社が資料提供にご協力くださったことに感謝しています。

すでに新聞記事等から明らかにされていますように、神戸電鉄の敷設工事の過程で十三名の朝鮮人労働者が犠牲となっています。私たちは、この事実に対して貴社としても追悼の意思を表明されることが必要であると考えており、毎年夏に神戸市北区の興隆寺で行なわれている神戸電鉄関係物故者の法要において、敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人労働者も共に追悼することが当然のことであると考えています。

そして、朝鮮人犠牲者の存在が明らかになった以上、貴社自らが、朝鮮人犠牲者のための「追悼碑」を、建立すべきであると考えています。この建立は、両国間の過去の不幸な関係を正し、これからの両国の真の友好を築く上で有益なことと確信しています。

「追悼する会」は、貴社に以下のとおり要望いたします。

一、本年8月に興隆寺で行なわれる法要に、朝鮮人犠牲者の名を銘記し追悼すること。

二、同法要に、朝鮮人犠牲者の遺族を招待すること。

三、朝鮮人犠牲者の追悼碑を建立すること。

以上の要望に対する貴社のお答えを、四月二〇日までに、文書でいただくようにお願いします。

一九九四年三月二四日

よびかけ

日々ご健勝のことと存じます。

神戸電鉄㈱の敷設工事の過程で多数の朝鮮人労働者たちが、苛酷な労働状況のもとで働き、この工事の期間中（一九二七～二八年および一九三六～三七年）一三名以上の尊い生命が犠牲になったという事実が最近明らかになりました。

このような事実に鑑み、彼ら朝鮮人労働者たちの実態を調べ、一三名の朝鮮人犠牲者を追悼することが、日本と大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国とのこれからの友好を築く一助にもなるとの思いから「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（仮称）を発足させようと思います。

この会は、上記の趣旨に賛同される方で、国籍、政党等は一切問わず、個人、団体が加入できるものといたしたいと思っています。多くの方々の賛同・参加をお待ちいたします

一九九三年七月

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

呼びかけ人代表　落合　重信

呼びかけ人

落合　重信　神戸史学会代表
本岡　昭次　社会党参議院議員
浦井　洋　元共産党衆議院議員
柏原　淳江　神戸ＹＷＣＡ総幹事
新間　智照　アムネスティー神戸
堀内　稔　むくげの会世話人
麻田　光広　在日朝鮮人・兵庫人権セミナー
河村宗治郎　戦争を起こさせない市民の会代表
上垣　正明　兵庫在日朝鮮人の教育を考える会代表
飛田　雄一　神戸学生青年センター館長
北里　秀郎　日本キリスト教団兵庫教区議長
宮崎　定邦　兵庫在日朝鮮人の人権を守る会代表
初瀬　龍平　神戸大学教授
家　正治　神戸外国語大学教授
滝沢　秀樹　甲南大学教授
領家　穣　追手門学院大学教授
若生みすず　在日朝鮮人運動史研究会関西部会会員
成　文慶　兵庫朝鮮人強制連行真相調査団事務局長
呉　相現　兵庫県韓国人権益擁護委員会委員長
宋　純鐘　兵庫県朝鮮学園理事長
金　守良　神戸朝日病院院長
李　鐘順　兵庫在日外国人保護者の会代表
朴　鐘鳴　錦繍文庫理事長
徐　根植　兵庫朝鮮関係研究会代表
権　誠治　長田マダン実行委員長
林　茂男　兵庫県韓国人三民会会長
韓　哲曦　青丘文庫代表
黄　光男　兵庫民族差別と闘う連絡協議会代表
成　伸宙　コブクソン会会長
郭　賢鶴　近畿朝鮮人教職員会代表
高　龍秀　甲南大学講師
鄭　承博　作家
金　正郁　陶芸家

賛同人／リスト（五〇音順）

石井　登　伊地知紀子　伊藤　竜平
稲本　今田　裕子　上田　真佐美
殷　宅基　大津　和子　岡崎　ひろみ
鹿嶋　節子　梶原　和代　姜　広明
北原　道子　金　慶海　金　相京
金　相大　金　恭由　金　秀大
金　成基　金　徳男　金　孝
金　海得　金　英達　公庄　れい
高　祐二　後藤　耕二　佐々木　道雄
佐藤　敬　申　命根　杉山　博昭
勢田　肇　高木　伸夫　田坂　富士男
田中　雅康　谷田　寿郎　趙　孟佑
鄭　晋和　全　隆男　鄭　鴻永
鄭　民和　辻本　久夫　寺岡　洋
寺坂　美智枝　徳富　幹生　中嶋　博
中利　義晴　西　咸子　西田　泰勝
西脇　鈴代　信長　たか子　原口　浩一
原田　紀敏　朴　健二　土方　克彦
裵　薫　裵　義夫　細見　昌宏
堀江　節子　堀口　宏二　堀越　由美子
松浦　弥生　松下　量子　松良　星二
光葉　啓一　宮内　有道　宮内　陽子
森　行雄　門永　秀次　尹　元寿
吉水　公一　李　圭燮　李　相泰
李　相大　李　鐘文　李　善明
李　秉萬　若宮　まさこ
その他氏名公表しない賛同者（8名）

賛同団体／リスト

神戸学生青年センター
神戸市職労・兵庫支部
在日韓国青年連合尼崎・西宮・西神
兵庫県韓国人三民会
社会党三田総支部
兵庫県朝鮮人強制連行真相調査団
長田マダン実行委員会
日本キリスト教団兵庫教区社会部
ブキメラの空
三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裵相度）の追悼碑を建立する会
南兵庫郵便局部落解放研究会連絡会議
むくげの会

神戸電鉄本社前(左)、藍那トンネル(右)でのサムルノリ　1993.11.21

芦屋マダンに参加しました
ー力作のパネルですー

去る三月二一日「ふれあい芦屋マダン」に、追悼する会より神鉄敷設事故の資料をパネル構成して出展しました。

パネル構成の内容は①事故当時の歴史的資料（新聞記事などのコピー）②調査や追悼活動の紹介（写真や聞取り調査文など）③イラストをつかった今後の活動宣伝など、四ツ切り（四〇〇ミリ×五四〇ミリ）サイズの二四点組みです。

敷設事故のことや私たちの調査・追悼活動について、より多くの人たちに少しでもわかりやすく伝えたいという思いで、事務局の総力挙げてパネルを制作しました。今後も機会があれば、どしどし情宣材料として活用していきたいと思っています。パネルの「サンプル写真版」を作りましたので、ご希望の方にはお貸しいたします。

もちろんパネル本体も貸出し可能です。皆さまにも利用していただければ幸いです。次回は四月二四日、長田マダンにて展示します。ぜひご覧ください。

（若宮まさこ）

「追悼する会」編／資料集
『神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者』
93年7月発行／B5／20頁／300円
新聞記事　写真を再録し敷設工事と朝鮮人労働者について記述。関連年表付き。

事務局日誌②

93・10・25　「追悼する会」ニュースNo.1発行
11・17　サンTVで「追悼する会」の調査活動が放映される
11・18　追悼式打ち合せ（於／学生センター）
11・21　藍那トンネルで追悼式↓学習会（サン、関西TVおよび神戸、産経、朝日、統一日報、東洋経済日報等で報道される）
12・1　『たたかう仲間』91号に追悼式のことが掲載される
12・2　第9回事務局会議（於／学生センター）
12・10　神戸電鉄本社訪問（全、飛田）
12・23　李秉萬さんの聞き取り調査に舞鶴へ（全、高、飛田）
94・1・1　兵庫県在日朝鮮人人権を守る会ニュース1月号に関連記事
1・20　神戸電鉄・谷上資料室訪問（全、金、高木、李）
1・27　第10回事務局会議
2・24　第11回事務局会議
3・　『自然食通信』59号に「追悼する会」のことが掲載される
3・　『ミレ』59号に「追悼する会」（金慶海）の記事が掲載される
3・8　神戸電鉄本社へ写真依頼に（後日入手）
3・10　芦屋マダン出典のための作業①
3・17　芦屋マダン出典のための作業②
3・21　芦屋マダンでパネル展示
3・24　第11回事務局会議
4・　『歴史と神戸』No.183（94年4月号）に「神戸電鉄敷設工事の朝鮮人たち」（金慶海）が掲載される

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会・ニュースNo.3

94年7月20日発行（代表／落合重信）100円

〒657 神戸市灘区山田町三―一―一 神戸学生青年センター内

電話 〇七八（八五一）二七六〇／FAX（八二一）五八七八

8月28日、韓国より遺族を迎え興隆寺（大池）で追悼式を開催します

一九二〇年代～三〇年代に神戸電鉄敷設工事の過程で13名の朝鮮人労働者が犠牲となりました。昨年七月に結成された「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（代表／落合重信）の調査活動で、13名の犠牲者のうち3名の遺族の消息が判明しました。今年の夏、そのうち6名を日本に招待して追悼式を催します。

お招きする遺族は、①一九二八年1月15日の東山トンネルの事故で亡くなられた黄範寿さん（当時30歳）、および②一九三六年11月25日の藍那トンネル事故で親子が同時に亡くなられた金鳳斗さん（当時47歳）、金東圭さん（当時24歳）の遺族です。

黄範寿さんの遺族から、黄範寿さんの娘の黄戊順さん（釜山在住、事故当時3カ月）、息子の嫁の尹福祚さん（蔚山在住、一九三二年生）です。黄範寿さんの遺族であとおひとり、黄戊順さんあるいは尹福祚さんの息子さんが来られます。

金鳳斗さん、金東圭さんの遺族から、父と兄を同時に失った金順牙さん（慶尚南道固城郡在住、当時21歳）および金漢圭さん（同、当時8歳）と奥様（一九三三年生）の3名です。

訪日の予定は次のとおりです。

8月26日（金）　午後　韓国金海（釜山）空港より大阪空港へ
27日（土）　午後　東山および藍那のトンネル事故現場を訪問
　　夜　会食会
28日（日）　午前10時　興隆寺（神戸電鉄大池駅下車）で追悼式
　　午前11時　同所で記者会見および報告集会
29日（月）　休息
30日（火）　大阪空港より帰国

追悼式には、多くの方がご参加くださるよう願っています。また会食会にご参加下さる方、また通訳等のボランティアをして下さる方は事務局までご連絡下さい。

「追悼する会」では、遺族招待のために百万円の募金を募っています。ご協力いただければ幸いです。（送金には郵便振替か現金書留をご利用下さい）

李秉萬さんを囲む会が開かれる

去る5月12日、神戸学生青年センターにおいて「藍那トンネル事故の目撃者・李秉萬さんを囲む会」が開かれました。当日は鈴蘭台駅前で事故当時に朝鮮人犠牲者の葬儀を目撃していた藤井包子さんも参加して下さいました。

12日午後2時から藍那トンネルの事故現場、李さんと藤井さんが通っていた小部小学校（今年一二〇周年）、葬儀の行われた鈴蘭台駅前、当時飯場のあったところ等を見てまわりました。

李秉萬さんは、藍那トンネル前で、当時のことを思い浮かべ、「早くこの場を去りたい」と嘆いていました。小部小学校では李さん藤井さんのふたりは小学校時代のことをなつかしく語りあっていました。また、飯場跡ではむしろで囲っただけの「タコ部屋」のことを詳しく話して下さいました。

午後七時からの集会では、事務局から韓青同の高祐二君から、当時の生々しい状況と一三名の犠牲者のうち二遺族が判明したので、韓国に調査に行くことなどの報告があった。

そして李秉萬さん、藤井包子さんから当時の体験を話していただきました。

参加者からは「日本の学校等では学べない本当の歴史をこのような集会でしか知ることができない」等の意見も述べられました。

また、神戸電鉄㈱に、①興隆寺での法要時に朝鮮人犠牲者の名を銘記し追悼すること、②同法要に朝鮮人犠牲者の遺族を招待すること、③追悼碑を建立することなどの要望をしましたが、良い返事が得られなかったため再度要望書を出したことが報告されました。

（李相泰記）

神戸新聞 1994.5.13

58年ぶり現地訪問

神鉄工事で朝鮮人死亡

藍那トンネル 目撃者の李さん

94.5.13 神戸

昭和初期、神戸電鉄の敷設工事で朝鮮人労働者の死亡事故が相次いだ問題で、一九三六年(昭和十一年)の藍那トンネル(神戸市北区)の落盤事故を目撃した李秉萬さん(七三)=舞鶴市=が十二日、現地を訪ね、「遺体を抱き号泣していた遺族の姿を忘れられない」と当時の様子を生々しく語った。

事故は同年十一月、トンネル貫通後の仕上げ作業中にがけが崩れ、朝鮮人労働者六人が圧死。これ以外の敷設工事でも七人の事故死が確認されており、当時の朝鮮人労働者を取り巻く劣悪な状況を裏付けている。当時、李さんは父親が藍那トンネル建設に従事し、一家は近くの作業場に住んでいた。

李さんは「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」のメンバーや鈴蘭台駅前での犠牲者の葬儀を知る藤井包子さん(六四)=同市垂水区=と現地を訪問。五十八年ぶりの藍那トンネルを前に「男も女も総出で、スコップや素手でけが人を掘り出した」「遺骨を朝鮮の遺族に届けてほしい、と会社にかけ合った父が仕事を辞めさせられた」などと語った。

藍那トンネルの前で58年前の事故を語る李さん（左）＝神戸市北区山田町

「氷を解かす熱」に

呼びかけ人・陶芸家・金正郁（キム ジョンウク）

北海道や九州の炭鉱。黒部立山のダム工事。日本各地の鉄道や道路。トンネル工事……。身近なところでは武庫川の河川敷工事、そしてとうとう神戸市内の神戸電鉄敷設工事で、朝鮮人労働者が犠牲になっていたことが調査され、この「追悼する会」が作られた。神戸在住の私にもこの会の発起人にと依頼があり、名を列ねたが、未だ出席する機会がなかった。偶々、会が開かれる日に他の約束が重なった為もあるが、こういう追悼の会というのを考えるだけで、最近医学的に大いに吹聴されている活性酸素というのが身体をかけめぐる気がする。憤怒で我を忘れるかも知れぬ会への出席を躊躇する気持ちがあるのも確かだ。

在日朝鮮人の私にとっては、強制連行をはじめ慰安婦や劣悪労働による犠牲者のことは、とうの昔から知っていたことである。同じ体験をしたり、その本人から聞いたという身近な在日一世達の伝聞によるものだから、犠牲者の名前や年齢、正確な人数が分っているというのではない。この会のように当時の新聞記事等で事実を綿密に調査し、まるで裁判の時の証拠のように目の前に示すことはもちろんできない。多分に情趣的なものだろう。

だけどこの情趣は、当時の苛酷さとは比較にはならないにしても、現在も尚その根本的なものは変っていない気がする。ある日本人が私に日朝（韓も含めて）間の感情はいつ氷解するだろうかと聞いたことがある。私は即座に、今の日本の制度のままでは絶対に有り得ないと答えた。現在、北の共和国の核問題から朝鮮人女学生が多数、匿名のいじめにあっている。変りようがどこにあるというのか。

しかし、この会や他の地道に発掘調査をする活動が、犠牲者の名前や遺族の存在を明らかにすることで、人間が一人一人生まれて死ぬことが見えてくるという当たり前のことを改めて思い起させ、日本人と朝鮮人とが共に全国で展開している小さな証拠の積み重ねの努力が、少しづつではあっても氷を解かす熱になるだろう。

藍那駅の〝つらら〟のこと

呼びかけ人・甲南大学教授　滝沢　秀樹

一九七九年から約一〇年間、私は神戸市西区（転居当時は垂水区からの分区以前）の住民で、神鉄粟生線で通勤していた。西鈴蘭台を過ぎると車窓は突然〝山の中〟になる。〝山〟から抜けて木津駅を過ぎ、次の木幡が私の下車駅であった。

通勤をはじめた頃、藍那駅周辺の風景の印象にすっかり感動してしまったことを憶い出す。線路の北側は通路をはさんで、昔の〝庄屋屋敷〟を思わせる旧家と小さな墓地、北側は旧斜面にへばりつくように並ぶ、相当余裕のありそうな農家風の家並。豪雪対策のためであろう、急勾配で高い瓦屋根が目立つ。

古い地図をみると、藍那は急行停車駅になっている。沿線の在来型集落として、大きなほうに属したのだろう。

駅前に、義経と弁慶が駒をつないだという大木がある。満員電車の車窓が、北側にむいた時はその大木、南側をむいた時は大きな崖というのが、トンネルを出た瞬間にホッとした気持ちにさせる駅のホームだった（トンネルが複線になるのは私の大阪転居後である）。

最初の秋、北側の崖からホームに垂れ下がる見事な紅葉に感激し、冬には、崖の全面を覆う〝つらら〟の林に圧倒された。

あのトンネル工事に多くの朝鮮人が働き、悲惨に死んでいったこと、その事実が隠され続けて来たことを、愚かにも私は知らなかった。恥かしいことだと、今にして思う。

あの〝つらら〟はその朝鮮人たちの「恨（ハン）」を表現しているのだろうか。故国を想う「涙」だったろうか。いまようやく「恨」を解く仕事がはじまっている。〝つらら〟を憶いながら我が身を恥じ、関係諸氏の活動に深く感謝したい気持ちである。

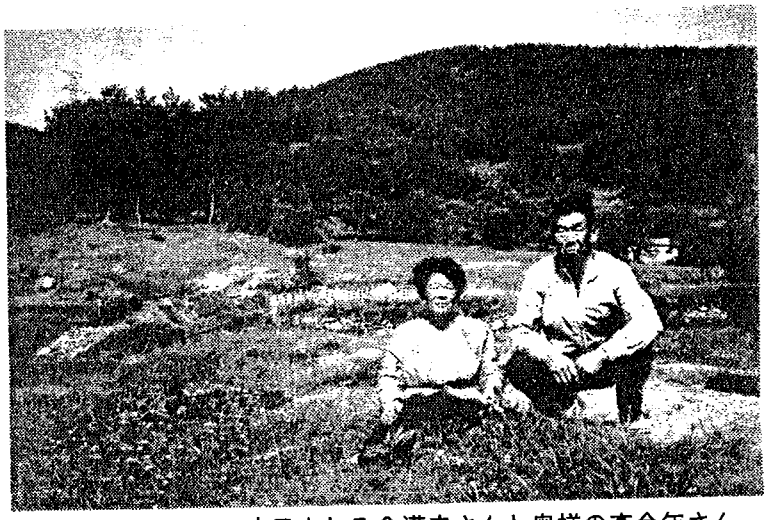
朝鮮人労働者の遺族を訪ねる韓国への旅

事務局長　飛田　雄一

固城郡に金漢圭さんを訪ねて

遺族の黄善済さんは蔚山市、金漢圭さんは固城郡に住んでおられる。いずれも慶尚南道である。釜山への飛行機の手配をしてから、韓国の遺族に日本から電話をし、訪問予定の日を知らせた。

五月一七日の夕方、釜山に到着すると、むくげの会とは長い付き合いである釜山外国語大学の林オンギュさんと釜山滞在中の出水さんが出迎えてくれた。本当にありがたいことに林さんが固城まで自家用車で同行してくれるのである。空港から固城の金漢圭さん宅に電話を入れると、夕食も用意しているので食事をせずにすぐ来るようにとのことだ。固城郡はとても広いが、目的地の下二面はその西の端にある。三千浦のすぐ東である。車は金海空港から馬山、晋州を通って三千浦に向う。三千浦は海岸沿いにあり、夕焼けがとてもきれいだった。空港から二時間ほどかかって下二面につくと、金漢圭さんが道まで出迎えに来て下さり、昨年九月に借金をして建て替えたという家に案内してくれた。家の隣には農耕用の牛のいる納屋があった。



来日される金漢圭さんと奥様の李今年さん。
金鳳斗さんのお墓がある山のふもとで。

金漢圭さんは一九三六年の藍那トンネル事故のとき九歳で、亡くなられた父の金鳳斗さんは当時四七歳、兄の金東圭さんは二四歳だった。金漢圭さんの家で私たちを待っていて下さったのは、金さん、金さんの奥様の李今年さん、近所にいた親戚の趙鏞旭さん（妹が金漢圭さんの兄と結婚、事故当時一一歳で葬式のことを覚えている）、それに事故当時二一歳であった姉の金順牙さんの四名である。金順牙さんは戸籍では生存も確認できてなくて、お会いできるとは考えていなかった方である。

そこで伺ったお話は次のようなことだ。

日本には、金鳳斗さんとその兄、それに息子の金東圭さんが、事故の五年ほど前に行った。金鳳斗さんは、渡日後奥さんが亡くなられたりして何回か朝鮮に帰ってこられており、その後再婚もされている。当時朝鮮で貧しい暮らしをしていて働くために渡日したという。金東圭さんは、日本に勉強するために行ったが、朝鮮には一度ももどらずに事故で父と一緒に死んだ。二人とも村で評判のいいほど頭がよく、村の人たちは、もったいないことをしたと言っていた。遺骨は、後妻の崔始女さんが(?)日本に引き取りに行き、二〇日後ぐらい後に持ち帰ったという。当時貧しかったが質素な葬式をし、山に二人の墓を作った。金鳳斗さんの墓は今でも近くの山にあるが、そこはもともと金鳳斗さんが父

来日される金順牙さん

のために購入していた百坪ほどの土地である。金東圭さんの墓はすぐその下のところに作ったが、そこは人の土地で、数年前に地主が墓を壊して畑にしてしまった。金順牙さんは、墓が急な坂の上にあり、また、行くと悲しくなるのでこの二〇年間行っていない。事故があったのは、旧暦の一〇月一二日で、今でもその日に祭祀（チェサ）をしているという。

事故のあったとき九歳の金漢圭さんは、同時に父と兄を失い、後妻の崔始女さんはその後実家にもどり、姉の金順牙さんもその後結婚して、金漢圭さんはひとりで大変苦労をしたという。金漢圭さんの兄＝金龍圭（キムヨンギュ）さんも日本に行ったまま行方不明で、今も龍圭さんのお奥さんはひとりで暮らしているという。

夜は、三千浦の旅館に泊るつもりだったが、どうしても泊っていけというので、その日は三人とも金漢圭さんの家に泊めていただくことにした。

金鳳斗さんのお墓にお参りする

翌一八日には、朝からお墓参りをした。お墓は家から二、三キロの、村を見渡すことのできる山の中腹にある。墓標のない土まんじゅうのお墓の前で朝鮮式のお参りをし、私も日本から持ってきたお酒をささげた。金漢圭さんと奥さんは、日本から五八年ぶりに日本人が訪ねてきたことを報告した。すぐ下にあったという金東圭さんのお墓のあったという所まで行ってみたが、そこはもう畑になってしまっていた。

金鳳斗さんの奥さんが一〇年ほど前に亡くなられたということで、金漢圭さんらはもう一〇年前に来てくれていたらという思いも語られていたが、一方で、もう一〇年遅かったらこのような出会いをすることができなかったかもしれないと話し合った。

昼食もしていけという金漢圭さんらと別れて、一一時ごろわれわれは釜山に向った。釜山では以前智異山を案内してくれた釜山日報の黄桂福（ファンケボク）さん、そして次の日に蔚山に自分の車で連れて行って下さる慶南工業専門大学の金大植（キムデシク）さんにお会いしていろいろな話をした。夕食には「元祖・参鶏湯」を食べ、その日は、釜山駅前のアリランホテルに泊った。

蔚山、そしてまた釜山へ

一九日は、蔚山に黄範寿さんの遺族を訪ねる日である。朝、ホテルに金大植さんと日本に留学していた金河元（キムハウオン）さんが迎えに来てくれた。蔚山までは車で一時間ほどの距離だ。蔚山のホテルでは、黄範寿さんの息子の奥様＝尹福祚（ユンボクチョ）さんが待っていて下さった。手紙や電話のやり取りをした黄善済さんは仕事でソウルに出かけていて、残念ながらお会いできないとのことだった。黄範寿さんの息子の黄海龍（ファンヘリョン）さんは、尹福祚さんと一九五一年に結婚されたが、六〇年に亡くなられた。尹福祚さんも、今回の訪問を大変喜んでくださり、事故のことなどは伝え聞いただけとのことだが、いろいろ話して下さった。そして、事故当時、生まれて八ヵ月だった娘の黄戊（ファンム）順（スン）さんが釜山に健在で、是非会うようにとのお話だった。蔚山で午前中に尹福祚さんからお話を伺ってから、また釜山に引き返し、夕方に今

度は黄戊順さんとホテルで待ち合わせた。黄さんは娘さんと一緒にホテルに来て下さった。

尹福祚さんと黄戊順さんからうかがった話は次のような話だ。

黄範寿さんが亡くなられたのは、陰暦の一二月二二日で、亡くなる前の晩秋に日本にいき、その冬に亡くなった。神戸の炭鉱で、落盤事故のため亡くなったと聞いていたが、今回、それが、電車のトンネル事故であったことがわかった。骨壺と銅銭ひとにぎりが小包で、死亡後、三ヵ月くらいして届いた。黄範寿の奥さん＝蒋容順（チャンヨンスン）さんは、死亡後に大変な苦労をしたが、黄戊順さんを小学校まで出させてくれたという。

来日される尹福祚さん（黄範寿さんの息子の嫁）

黄範寿さんが亡くなられた東山トンネルでの事故は、一九二八年のことだから実に六八年前の話である。黄さんの遺族は、まさに思いもかけない「関係者」の出現を、心から喜んで下さった。

旅の収穫・旅の反省

その夜は、金大植さんのお宅に泊めていただき、翌二〇日には空港に行く前に釜山大学の教師で『鴨緑江の冬』の訳者でもある青柳純一さんとその学生たちと話をした後、あわただしく神戸に戻ってきた。今回の訪問では、予想していなかった方にお会いすることができた。固城の金順牙さんと釜山の黄戊順さんである。その意味でも訪韓の目的は充分に達せられたと思う。

それにしても聞き取り調査の中での慶尚道方言（サツリ）は、自分でも情けなくなるくらい理解できなかった。金漢圭さんの息子さんや黄善済さんは、私とそれほど年も変らず電話で話しても、私の朝鮮語でも問題はなかったが、上の世代の言葉は本当にむつかしかった。取材旅行のジャーナリストとしては失格だったようだ。

いま「追悼する会」が進めている神戸電鉄敷設工事の朝鮮人犠牲者の調査活動は、一九二〇年代、三〇年代のことであり、調査は困難な面も多いが、いくつかの幸運に恵まれていると思う。朝鮮戦争のために植民地時代の戸籍が焼失している場合も多いと聞いているが、今回の遺族が固城郡、蔚山郡と朝鮮半島の南東部にあったので当時の戸籍がそのまま残っていたのかもしれない。また、今回の訪韓では「追悼する会」事務局では私だけが時間を都合して行けることになったが、古くからの友人のいる釜山が調査のベースであったことも幸いなことでであった。

また、韓国の遺族に朝鮮語の手紙を書くとき、また、録音してきたテープを聞いてもらたりするのに私の後輩に当る神戸大学農学部の留学生・鄭燦圭（チョンチャンギュ）さんにも大変お世話になった。今回の旅は、持つべきものは友達だ、と、改めて感じさせてくれた旅でもあった。

神戸電鉄本社が自社の過去帳に13名の朝鮮人犠牲者を記帳することになりました

「追悼する会」が、3月24日付けで㈱神戸電鉄にたいして「要望書」を出したことは、ニュース№2でお知らせした。その内容は、①本年8月に興隆寺で行なわれる法要に、朝鮮人犠牲者の名を銘記し追悼すること、②同法要に、朝鮮人犠牲者の遺族を招待すること、③朝鮮人犠牲者の追悼碑を建立することの三点である。

それにたいし、4月20日、総務部長・佐藤至彦の名前で、次のような回答があった。

興隆寺での法要は、役員を含む社員の在職中の死亡および当社の運行に基づく死亡者を対象としております。また慰霊碑は今までどの死亡事例についても建立しておりません。／従いまして、貴会のご要望については、上記取扱いに照らし、①②③とも、お応えいたしかねる次第でございます。

この回答に納得のいかないわれわれは、5月2日、再要望書を出した。その中では「いずれ遺族も来日されることになり、この問題はさらに大きく社会問題として取り上げられることになると考えられます。貴社としても、たとえば『当時、下請けの業者が行なったことで本社とは一切関係がない』というようなことでは、貴社のイメージダウンになるのではないかと思われます」というようなことも書き、最終的に次の二点を質問した。

① 興隆寺での法要等に「お応えしかねる」との回答がありましたが、それでは、神戸電鉄敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人労働者を貴社として、どのような追悼行事（法要、遺族の招待、追悼碑の建立など）をされるのでしょうか。

② 追悼行事の必要性を認めないというのであれば、敷設工事の過程での朝鮮人労働者の犠牲が、貴社と無関係であると表明されたことになりますが、そうお考えであれば、その理由をお聞かせ下さい。

神戸電鉄は当初より、「13名の犠牲は下請けの会社がしたことで当社とは第一義的に関係がない」という態度を示していたが、「追悼する会」との何回かの交渉の結果、この再要望書に答える形で6月23日、「再回答」がでた。それは、「貴会からお申し出のありました追悼行事につき、当社において種々検討いたしました結果、下記のように対応させていただくことにいたしました」で始まる次のような回答であった。

① 貴会の計画されている追悼行事を興隆寺でしていただき、その中で当社の弔意の表明として、同寺の過去帳に犠牲者の名を記載させていただきます。

② 追悼行事の費用の一部を「お供え」として負担させていただきます。

③ 当社は、慰霊を興隆寺の法要のみで行い、他に追悼碑は建立しておりませんので、当社主体での追悼碑の建立はできかねます。

「追悼する会」としてこの再回答の③などに不満は残るが、肯定的に受け止めることにした。これをうけて、本ニュースの冒頭にあるように8月28日に大池の興隆寺で追悼行事がおこなわれるこのになったのである。神戸の市街地からは時間がかかり参加者には不便をかけるが、いわば興隆寺にある神戸電鉄の過去帳に13名の犠牲者の名前が銘記されることを記念する追悼行事でもあるのである。

（飛田雄一記）

聞き取り調査の報告／調査部

神有電鉄（一九二〇年代）と三木電鉄（一九三〇年代）など、今の神戸電鉄の敷設工事にかかわる朝鮮人労働者たちの労働と犠牲についての実態を、より正確に知るための聞き取り調査を行っている。

その労働者たちの飯場跡が神戸市長田区源平町（神戸電鉄の丸山駅を鈴蘭台に向ってすぐの線路の東側）にある。そこには現在、朝鮮人の三つの密集地があるが、そこでの調査を中心に聞き取りを行っている。それは彼らが、どのようにして密集地を形成し、どのような生活をしたのかを調べるとともに、現在起こっている立ち退き問題についても調べることを目的にしている。

最盛期には、百数十戸あったと思われるが、現在は三つ合せて三十戸ぐらいと推定される。ちなみに、ここの朝鮮人たちは、線路の下をくぐっているトンネルを通って〝村〟に入るが、丸山駅より北に向って「アレッくれ」（下トンネル村）、「カンくれ」（間トンネル村）、「ウッくれ」（上トンネル村）とも呼んでいる。

アレッくれは韓青同（担当・高祐二）、カンくれは韓学同（担当・梁龍成）、ウッくれは留学同と金慶海が受け持って調査を進めることにしたが、まだ、全体の調査が終わっていない。とりあえず、今年の五月と六月に行った調査をまとめて中間報告とする。

金鳳龍さんのお話

一九一一年生まれ、83歳。慶尚南道蔚山郡出身。神戸市兵庫区里山町在住。そこは神戸電鉄ひよどり越駅下車すぐのところでアレッくれには入らない。

▽ 有馬温泉の近くに兄がいたので仕事を求めて一九三五年二月一五日、日本に来た。そのあたりの団地をつくるための土方仕事を一日一円でした。

▽ 日当がいいからと聞き、翌三六年に三木線の工事に行った。日当は一円二〇銭だった。鈴蘭台から三木に向ってすぐの、小さなトンネルを掘る仕事で、砂やバラスを運んだ。監督は日本人で、私は日本語がよくわかないので指示どおりに仕事をした。飯場はいくつかあったが、私のいた飯場には、一〇人くらいの朝鮮人がいた。

▽ 藍那トンネル事故（一九三六年11月25日）については、当時親子が亡くなったということを聞いたが、親が先に働いていてあとで息子を呼んだという。事故のことは、遺体が積まれて鈴蘭台に来たときに聞いた。葬式は鈴蘭台でしたらしい。

▽ 三木線の工事が終わったあとは、日本全国に土方の仕事を求めて旅から旅の生活だった。市有地にあるこの家に住んでから三三年になる。

（5月26日、高祐二の紹介で金慶海が聞き取り）

「ウッくれ」（上トンネル村）で

（ウッくれには現在、五家族が住んでいるが、そのすべてが朝鮮人である。そこに住む金旦石（高橋正男）さん（60歳）のはなし）

▽ 祖父母がすでにここに住んでいた。親と自分たちは敗戦直後、大阪からここへ帰国の準備のために集まったが、そのまま住みつくようになった。電鉄敷設工事のための飯場は、このウッくれでは三戸だけだったと聞いている。

▽ 三、四年前から清水建設とアジア産業が地上げに来ているが・・・。

▽ 他の四名も戦後にここに移り住んだ人たちで、敷設工事にはかかわっていない。

「アレッくれ」（下トンネル村）の玉山勇次（日本名）さん

（6月30日、長田福祉事務所ケースワーカーの山崎さん、高橋さん、小西さんと高祐二が聞き取りに行く。）

▽ 源平町には、一九世帯ほどの朝鮮人が住んでいる。地主が許可していないため電話は引けなので、病気などの緊急時には道が狭く車が入れないほどで不安である。電気は通っているが電圧が低いためクーラーが使えない。水道はある時期に無許可で引いたらその後、神戸市がメーターをつけにきた。下水道は整備されていない。カンくれでは、孫さんが有機農業で野菜をつくっているよ。

▽ 一時、藍那に住んでいたが藍那トンネル事故のことは知らない。

▽ 戦時中は、元町あたりで憲兵の指導のもと軍事訓練に携わった。いろいろ戦争に協力したのに、骨まで絞るだけ絞って、後は知らんふりというのは許せない。私たちは、牛馬のようにこき使われた。今となっては祖国にも帰れないし、好きでここに住んでいるのではない。日本は単一民族社会というが、世界のどこにもそんな国はない。アメリカのインディアンや日本のアイヌのように、大国が力の強いものが先住民族を支配し、同化・抑圧を行ってきた。在日朝鮮人問題もこれに似ており、日本政府は一日でも早く補償をすべきである。私たちは職もなく年金もなくしかたなく福祉を受けている。追い討ちをかけるような地上げはやめてほしい。

河原さんの証言

（「追悼する会」のことが報道された94年5月23日の毎日新聞を見て、田中文子さんが、6月8日、神戸学生青年センターに来てくださった。父（河原さん）が神有電鉄敷設工事に従事した朝鮮人たちについて知っているとのことであった。6月21日、飛田と高祐二が河原さんを訪ね、現地を案内してもらった。

河原郁夫さんは、神戸市北区谷上在住79歳。娘の田中文子さんも谷上在住。）

河原郁夫さん

▽　一九二七年ごろ、神有電鉄敷設工事のための谷上付近の線路の土盛りの土木工事に朝鮮人労働者が従事した。西側の谷上より少し標高のある今の大池駅あたりからトロッコで土を運んでいた。有馬街道と立体交差するため、五～七㍍盛土する大工事だった。トロッコは四～五〇㌢の車輪に心棒をつけただけの簡単なつくりで、畳一帖ほどの大きさで、高さは七～八〇㌢程度だった。二人で空のトロッコを大池まで押し上げ、そこで土を積んでブレーキをかけながら谷上あたりまで下り、そこで台ごとひっくり返した。

飯場のあった水車小屋跡

▽　谷上―花山間に朝鮮人の飯場が三ヶ所あった。川沿いの①北区下谷上五〇番地、②花山東町それに③花山駅下の水車小屋跡の三ヶ所だ。飯場で四～五〇㌢ほどの平鍋で白米を炊いていて、私は焦げたところをもらって食べたことがある。ぼうだらをほしたりもしていた。朝鮮人の女性が先のとがった靴を履いていたことを印象深く覚えている。日本人は、働いていなかったように思う。

▽　私は、「追悼する会」の資料にある一九二七年八月一日の土砂崩れによる二名の朝鮮人労働者の死亡事故のことは知らなかった。

「武庫郡山田村下谷上の高さ八間の竹藪切り取り工事中」とあるのは、①現在の谷上駅西約一〇〇㍍の付け替え工事以前に線路のあった急勾配の竹藪か、②谷上駅から西へ三〇〇㍍ほどのところにあり砂利採集所であった現在の地下鉄車庫付近の竹藪のことではないかと思う。それ以外に当てはまりそうな竹藪はない。

遺族招待のための100万円をカンパをよろしく！

8月28日の追悼式のために韓国より6名の遺族を招待します。航空券代、滞在費等に100万円が必要です。すでに「追悼する会」に賛同され賛同金を振り込まれた方も、是非、カンパをお願いします。

また、まだ賛同されてない方は、是非、「追悼する会」の賛同人に加わって下さい。賛同金は、個人一口 3,000円、団体一口 6,000円です。

いずれも、送金は、郵便振替＜神戸1-41243 追悼する会＞で、よろしく。

神戸電鉄工事の朝鮮人労働者

事故死の報 60年ぶり届く

遺族に

昭和初期の神戸電鉄建設工事で事故死した朝鮮人労働者の遺族が韓国内にいることを神戸の市民グループ「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（落合重信代表）が突き止めた。訪韓したメンバーから約六十年ぶりに死因を知らされた遺族は「この目で現場を見たい」という希望が強く、同会はこの夏にも遺族を日本に招き、慰霊祭を行う予定だ。

神戸市街地と有馬温泉などを結ぶ同電鉄の建設工事は一九二七―二八年、三六―三七年に行われた。同会の調査で、約千五百人の朝鮮人が従事し、少なくとも十三人が事故死したことが分かった。当時の新聞記事をもとに韓国の自治体などに問い合わせたところ、三人の犠牲者の遺族が判明。今月、飛田雄一事務局長（四四）が訪韓し、遺族に面会した。

今夏、慰霊祭を

三六年十一月の藍那トンネル（同市北区）事故で父（当時四十七歳）と兄（同二十五歳）が犠牲になった金漢圭さん（六六）＝慶尚南道固城郡在住＝は「母が二人の遺骨を持って帰って来たが、死因は知らなかった」と、事故を伝える新聞を見て泣いた。他の遺族の中には、父親は炭鉱で死んだと聞かされていた人もいたという。

飛田事務局長は「日本の植民地支配下の朝鮮半島からは、強制連行以前にも多数の人々が来日。事故で死んだ三人も、仕事を求めてやってきたというが、その実態は不明な点が多い。これを埋もれた歴史に光を当てるケーススタディーにし、他の事例も調査したい」と話している。

神戸電鉄の話　犠牲者は当社の請負会社が雇用していたもので、当時の詳しい状況は分からない。しかし、グループが慰霊祭を行うなら協力する考えはある。

藍那トンネル事故を伝える1936年11月26日付の大阪毎日新聞

毎日新聞 1994.5.23

神鉄工事の朝鮮人犠牲者

韓国の遺族を訪ね事故報告

「追悼する会」の飛田さん

昭和初期、神戸電鉄の敷設工事で朝鮮人労働者の死亡事故が相次いだ問題で、「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」事務局の飛田雄一さんがこのほど、韓国の遺族を訪ねた。

訪れた先は、一九三六年に神戸市北区・藍那トンネルの事故で父と兄を亡くした金漢圭さん（慶尚南道固城郡）らと、二八年に同市兵庫区・東山トンネルの事故で父を亡くした黄戊順さん（釜山市）ら二遺族。

遺族は追悼する会の調査で分かり、五月十七―二十日に飛田さんが訪韓。父の死因を知らされた黄さんは「父は炭鉱で事故に遭ったと聞いていた。事故のあと三カ月ほどしてから、骨つぼと銅銭一握りが入った小包が届いた」と語ったという。会では八月に行う追悼式に遺族らを招く予定。

神戸新聞 1994.5.24

第5回長田マダンでパネル展示

「ひとつになろう。民族のマダン(広場)で」を合言葉に第5回長田マダンが去る4月24日、神戸市長田区の神楽小学校で開かれ、「追悼する会」は神戸電鉄敷設工事過程での事故、労働争議を中心にパネル構成して展示しました。

パネル構成の内容は、①事故、労働争議など当時の新聞資料、②調査や追悼活動の紹介などの二〇数点です。

当日は好天気に恵まれ、多くの人が熱心にパネルに見入っていた。

また、4・24阪神教育闘争（一九四八年当時、西神戸朝鮮学校即ち現在の神楽小学校など神戸市内の三朝鮮学校の閉鎖方針に対する闘い）についても兵庫朝鮮関係研究会のパネル展示が行われた。

長田マダンでのパネル展示 1994.4.24

＃　＃

94平和と生活をむすぶつどい阪神地域集会
神戸電鉄の過去の真実を訴える劇を上演

5月22日(日)、神戸元町のひょうご共催会館において、「94平和と生活をむすぶつどい阪神地域集会」を開催しました。

朝鮮半島の軍事緊張が一段と高まり、それを口実にした日本の有事体制づくりが公然と進められる中、約七〇名の参加者は侵略を二度と許さないために、過去の真実を明らかにし戦後補償実現の運動を広げていくことを確認しました。

第一部では、兵庫朝鮮関係研究会の金慶海氏から「兵庫県の近代化に尽くした朝鮮人」と題して講演していただきました。「兵庫県下の河川、水道、鉱山、鉄道など、まず朝鮮人がかかわっていない所はありません。橋を渡るときちょっと考えてほしいです。三菱の鉱山はひどかったですよ。リンチを同胞にやらせたりしました」と詳しい報告をしていただきました。

第二部では、「朝鮮人の血がにじむ枕木～神戸電鉄の過去から未来を見つめ、ともに生きる社会を」と題して、劇を行いました。在日の青年が日本人の若い女性を案内して、神鉄のトンネルや源平町を見て回るという設定で、トンネル事故や争議の再現シーンを折り混ぜながら、素人ながら熱演しました。

この劇は日本人と在日の仲間で一緒に作って練習し、本番に臨みました。劇の中で、「百年も一緒に暮らしているのに、今もずっと差別が残っている。世の中にある厚い壁のことは差別されている人に接しないと分らないのね」という日本人の女性役の台詞を受けて、在日の女性が寄せてくれた手紙を紹介するシーンがあり、胸にひびきました。そして、就職差別、チマ・

チョゴリへの暴行などが絶えない社会をかかえる気持ちを込めて、劇の最後は「平和な未来をともに生きていこう！」としめくくりました。

参加者から「小林長兵衛(元神鉄社長)をけちょんけちょんに、けなしているところがいい」（金慶海氏）、「私達が差別を残してきたのかしらという台詞が印象に残った」、「手紙がよかった」などの感想が寄せられました。

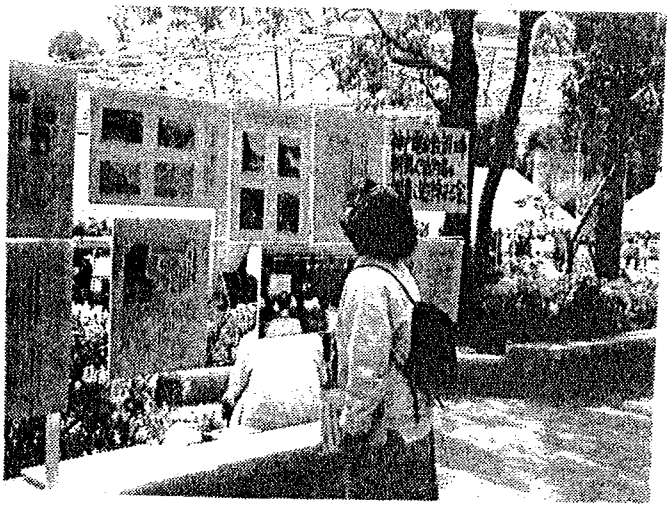
集会後、三宮センター街をデモ行進し、チャンゴのリズムに合わせて、「戦後補償実現、改憲・有事体制反対」とアピールしました。

（松谷卓人）

＃　＃

地球大好き、原発きらい、いのちの祭り94「追悼する会」パネル展示

4月29日、神戸三宮の東遊園地は絶好のお祭り日和に恵まれ、ステージではプンムル（農楽）や様々なイベントがにぎやかに行われました。周囲にはおいしく、楽しい出店が並び、各グループがご自慢の手づくり品を競いあっていました。



いのちの祭り94でのパネル展示 1994.4.29

木陰に設けられた展示コーナーでは、「追悼する会」をはじめ3団体程の出典がありましたが、それぞれ力作でパネル前に歩みをとどめる人々が多く見受けられました。カンパを下さった方もありました。ありがとうございました。

事務局手づくりのパネルは、サイズ（40×52㌢）をそろえてあるので展示しやすいのがジマンのひとつです。皆さまの身近でもご活用いただければ幸いです。

（若宮まさこ）

●広告●

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会編集・発行

神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者《資料集》

１９９３年７月２２日発行　Ｂ５判　２０頁　３００円

当時の新聞記事を多く集録し、敷設工事に携わった朝鮮人労働者の労働災害、労働争議の実態に迫る。詳細な関連年表付き。

よびかけ

日々ご健勝のことと存じます。

神戸電鉄㈱の敷設工事の過程で多数の朝鮮人労働者たちが、苛酷な労働状況のもとで働き、この工事の期間中（一九二七～二八年および一九三六～三七年）一三名以上の尊い生命が犠牲になったという事実が最近明らかになりました。

このような事実に鑑み、彼ら朝鮮人労働者たちの実態を調べ、一三名の朝鮮人犠牲者を追悼することが、日本と大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国とのこれからの友好を築く一助にもなるとの思いから「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（仮称）を発足させようと思います。

この会は、上記の趣旨に賛同される方で、国籍、政党等は一切問わず、個人、団体が加入できるものといたしたいと思っています。多くの方々の賛同・参加をお待ちいたします

一九九三年七月

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

呼びかけ人代表　落合　重信

呼びかけ人

落合　重信　神戸史学会代表
本岡　昭次　社会党参議院議員
浦井　洋　元共産党衆議院議員
柏原　淳江　神戸ＹＷＣＡ総幹事
新間　智照　アムネスティー神戸
堀内　稔　むくげの会世話人
麻田　光広　在日朝鮮人・兵庫人権セミナー
河村宗治郎　戦争を起こさせない市民の会代表
上垣　正明　兵庫在日朝鮮人の教育を考える会代表
飛田　雄一　神戸学生青年センター館長
北里　秀郎　日本キリスト教団兵庫教区議長
宮崎　定邦　兵庫在日朝鮮人の人権を守る会代表
初瀬　龍平　神戸大学教授
家　正治　神戸外国語大学教授
滝沢　秀樹　甲南大学教授
領家　穣　追手門学院大学教授
若生みすず　在日朝鮮人運動史研究会関西部会会員
成文　慶　兵庫朝鮮人強制連行真相調査団事務局長
呉相　現　兵庫県韓国人権益擁護委員会委員長
宋　純　鐘　兵庫県朝鮮学園理事長
金　守　良　神戸朝日病院院長
李　鐘　順　兵庫在日外国人保護者の会代表
朴　鐘　鳴　錦繍文庫理事長
徐　根　植　兵庫朝鮮関係研究会代表
権　誠　治　長田マダン実行委員長
林　茂　男　兵庫県韓国人三民会会長
韓　哲　曦　青丘文庫代表
黄　光　男　兵庫民族差別と闘う連絡協議会代表
成　伸　宙　コブクソン会会長
郭　賢　鶴　近畿朝鮮人教職員会代表
高　龍　秀　甲南大学講師
鄭　承　博　作家
金　正　郁　陶芸家

賛同人・賛同団体

賛同人／リスト（五〇音順）

安藤 康子　石井 登　伊地知 紀子
伊藤 竜平　稲本　今田 裕子
林 泰 渉　上田 真佐美　梅尾 文子
殷 宅 基　大久保 正之　大津 和子
岡崎 ひろみ　岡田 雅宏　長 元一郎
鹿嶋 節子・梶原 和代　姜 広 明
北原 道子　金 卓　金 慶 喆
金 慶 海　金 相 京　金 相 大
金 恭 由　金 在 根　金 秀 大
金 秀 夫　金 成 基　金 日 石
金 泰 煥　金 徳 男　金 孝
金 孚 顕　金 海 得　金 民 誠
金 民 奉　金 民 和　金 良 煥
金 英 達　久保 光瑞　公庄 れい
高 祐 二　権 五 哲　近藤 伸一
後藤 耕二　佐々木 道雄　佐藤 敬
志村 三津子　申 命 根　杉山 博昭
勢田 肇　成 伸 宙　宋 純 鐘
高 仁 宝　高木 伸夫　田坂 富士男
田中 貴夫　田中 文子　田中 雅康
谷田 寿郎　田平 正子　玉川 ゆか
張 英 吉　趙 星 来　趙 東 哲
趙 孟 佑　全 隆 男　鄭 鴻 永
鄭 晋 和　鄭 民 和　辻本 久夫
寺岡 洋　寺坂 美智枝　徳富 幹生
中嶋 博　中田 作成　中利 義晴
滑川 久子　西 咸子　西 ひとみ
西田 泰勝　西脇 鈴代　信長 たか子
原口 浩一　原田 紀敏　朴 健 二
土方 克彦　玄 美 善　福島 利明
福島 利明　藤原 史朗　裵 薫
裵 義 夫　細見 昌宏　堀江 節子
堀口 宏二　堀越 由美子　松浦 弥生
松下 量子　松良 星二　光葉 啓一
宮内 有道　宮内 陽子　宮武 隆
文 聖 学　森 行雄　門永 秀次
山本 春根　梁 勝 則　尹 元 寿
吉水 公一　李 圭 燮　李 相 泰
李 相 大　李 相 哲　李 鐘 文
李 善 明　李 秉 萬　若宮 まさこ

その他氏名を公表しない賛同者 八名

賛同団体／リスト（五〇音順）

錦繍文庫
（財）神戸学生青年センター
神戸市職労・兵庫支部
在日韓国青年連合尼崎・西宮・西神
兵庫県韓国人三民会
社会党三田総支部
兵庫県朝鮮人強制連行真相調査団
スナック米米
タカラブネ労組神戸支部
長田マダン実行委員会
ブキメラの空
平和と生活をむすぶ会
三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裵相度）の追悼碑を建立する会
南兵庫郵便局部落解放研究会連絡会議
むくげの会

事務局日誌③／94年4月～7月

4・15 ニュースNo.2発行
4・20 神戸電鉄本社訪問（第一次要望書に対する回答）
4・24 長田マダンでパネル展示
4・28 興隆寺訪問／事務局会議
4・29 反原発ひろば（於／神戸市東遊園地）でパネル展示
5・12 李秉萬さんを招いて集会
5・17～20 飛田事務局長訪韓
5・22 むすぶ会集会で神戸電鉄朝鮮人犠牲者関係の演劇上演
5・23 毎日新聞に訪韓のことが報道される
5・24 神戸新聞に訪韓のことが報道される
5・26 金鳳龍さん聞き取り調査／事務局会議
5・29 むくげ通信一四四号に訪韓の記事
6・3 神戸電鉄本社訪問
〃 社会新報に李秉萬さんの記事掲載される
6・7 興隆寺訪問
6・9 臨時事務局会議
6・11 源平町聞き取り調査／神戸北野町の萌の館（旧小林邸）調査
〃 パネルづくり（第二次）
6・15 サンテレビ遺族訪問のこと放映
6・16 源平町（ウックレ＝第3トンネル）聞き取り調査
6・21 谷上駅周辺で聞き取り調査
6・23 神戸電鉄より再要望書への回答が届く／事務局会議
6・20～25 神戸朝日病院（神戸市長田区）職員食堂でパネル展示
6・26 「在日朝鮮人への弾圧を許すな！」集会でパネル展示
6・30 源平町（アレックレ＝第1トンネル）聞き取り調査
〃 神戸電鉄訪問
〃 在日本大韓民国民団兵庫県本部、興銀神戸支店訪問
7・1 社会新報に訪韓のこと等が掲載される
7・3 神戸市北区の自治会のMさん聞き取り調査
7・4 在日本朝鮮人総聯合会兵庫県本部訪問
7・7 事務局会議
7・15 兵庫県在日朝鮮人の人権を守る会ニュースに記事掲載
7・21 有馬口で聞き取り調査／興隆寺訪問

ニュースNo.3 目次 1994・7・20

		（頁）
8月28日 追悼式・案内		1
5・12李秉萬さんを囲む会・報告		2
「氷を解かす熱」に	金 正 郁	3
藍那駅の〝つらら〟のこと	滝沢 秀樹	3
遺族を訪ねる韓国への旅	飛田 雄一	4
「神戸電鉄本社が過去帳に記帳」		7
聞き取り調査報告	調査部	8
新聞記事（訪韓報告）		11
活動報告（パネル展示／演劇）		12
よびかけ／呼びかけ人		14
賛同人／賛同団体		15
事務局日誌③		16

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会・ニュースNo.4

95年5月15日発行〈100円〉

〒657 神戸市灘区山田町三―一―一 神戸学生青年センター内
電話 〇七八（八五一）二七六〇／FAX（八二二）五八七八
郵便振替〈〇一二〇―九―四二二四三 追悼する会〉

未曾有の阪神・淡路大震災から4ヵ月が過ぎました。震災にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

●

昨年八月に「追悼する会」は、韓国より神戸電鉄敷設工事で犠牲となられた朝鮮人労働者の遺族をお招きして追悼行事を行いました。新聞等で報道されたのですでにご存知かと思います。本ニュースにも記録を掲載いたしましたので、是非ご覧下さい。遺族を韓国よりお招きしての追悼行事は、われわれ「追悼する会」が目標としていた事業の主要なものの一つでした。多くの方々のご協力を得てそれを成しとげられたことを、嬉しく思っています。「追悼する会」としては、それを踏まえていよいよ追悼碑建立の事業に具体的にとりかかりたいと考えています。

●

会として悲しい知らせを二つしなければなりません。

ひとつは、かねてから体調をくずされていた当会代表の落合重信先生が、肝臓ガンのため去る二月一五日に亡くなられました。先生の存在が「追悼する会」にとって、とても大きなものであったことはいうまでもありません。もうひとつは、今回の震災で会の事務局の有力なメンバーであった成文慶さんが、神戸市中央区の自宅が全壊して亡くなられたことです。本ニュースにおふたりの追悼文を掲載しています。

●

「追悼する会」では、悲しみを乗り越えて追悼碑建立のための活動を力強く進めていきたいと思います。左記のような集会を計画しました。まだまだ震災の影響が多く残っており、交通も不便ですが是非ともご参加下さい。

神戸電鉄敷設工事で犠牲となった朝鮮人労働者の追悼碑建立のための集い

とき　5月25日(木)午後7時

ところ　神戸学生青年センター・ホール
（阪急六甲下車、北東徒歩2分　Tel 078-851-2760）

内容

①神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者　金慶海
②「追悼する会」の歩み　飛田雄一
③落合重信さん、成文慶さん追悼の会
④「追悼する会」新しい代表選出
⑤追悼碑建立建立のための話し合い

94年夏 韓国より遺族を招いて

「追悼する会」は一九九四年八月二八日、韓国から二組四名の遺族をお招きし、神戸市北区の大池の興隆寺で神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者追悼式を営みました。

九三年七月に結成された「追悼する会」は、調査活動の結果、当時の新聞記事などから五件の事故で一三名の朝鮮人労働者が犠牲となったことが判明し、新聞記事の本籍からその本籍地の面事務所に問い合せたところ、三名の遺族を確認することができた。九四年五月に事務局が韓国を訪れ、東山トンネル事故（一九二八年一月）の犠牲者黄範寿さんと藍那トンネル事故（一九三六年一一月）の犠牲者金鳳斗・金東圭父子の遺族に会い、事故当時の話を伺い、追悼式に参加を要請、快諾を得た。

「追悼する会」では九四年三月、神戸電鉄が毎年八月に興隆寺で開いている神戸電鉄関係物故者の法要に犠牲となった朝鮮人労働者も共に追悼することが当然であるとの立場から、①八月に興隆寺で行われている法要に朝鮮人犠牲者の名を銘記し追悼すること、②同法要に朝鮮人犠牲者の遺族を招待することなどを要望した。神戸電鉄の四月二〇日付の回答は、興隆寺での法要は「役員を含む社員の在職中の死亡および運行に基づく死亡者」を対象にし、敷設工事に携わった朝鮮人労働者・犠牲者はその範囲でないという意思を表明したのであった。納得できない我々はさらに五月二日付で以下の再要望書を送付した。

1994年８月28日
神戸市北区興隆寺

①興隆寺での法要等に「お応えしかねる」との回答がありましたが、それでは、神戸電鉄敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人労働者を貴社として、どのような追悼行事（法要、遺族の招待、追悼碑の建立など）をされるのでしょうか。②追悼行事の必要性を認めないというのであれば、敷設工事の過程での朝鮮人労働者の犠牲が、貴社と無関係であると表明されたことになりますが、そうお考えであれば、その理由をお聞かせ下さい。

こうした再要望に対し、六月二三日付で神戸電鉄本社は当社案として、①貴会の計画されている追悼行事を興隆寺でしていただき、その中で当社の弔慰の表明として、同寺の過去帳に犠牲者の名を記載させていただきます、②追悼行事の費用の一部を「お供え」として負担させていただきます（後略）。

記者会見にのぞむ遺族たち

以上の回答を受け、「追悼する会」は尚不満は残るが、会として遺族を招待し、独自の追悼式を開くに至ったのである。

来日したのは藍那トンネルで父と兄を同時に失った金順牙さん（79歳）、金漢圭さん（66歳）姉弟と金漢圭さんの妻・李今年さん（60歳）、それに東山トンネル事故で義父を失った尹福祚さん（62歳）の四名で、八月二六日午後、大阪空港に着いた。二七日に東山および藍那トンネル事故現場を訪れ、異国の地で無念の死を遂げた肉親を思い号泣した。

二八日は午前一〇時から興隆寺で追悼式が開かれ、「追悼する会」の落合重信代表が追悼文を朗読し、参加者一同が焼香した。「下請けが請け負った工事」などとしてきた神戸電鉄代表も参加し、興隆寺にある自社の過去帳に朝鮮人犠牲者の名前を初めて記載して弔慰を表明した。また、有志によるサムルノリ、神戸電鉄と朝鮮人労働者との関わり、事故の実態を訴えた劇も行われ、犠牲者の魂を慰め、さらに真相が明らかにされた。

一一時から来日した遺族から話を伺い、「初めて知ったが過去のことと片付けず、起こったことは忘れないでほしい」、「父や兄がつるはしを握ったまま生き埋めになったとは知らなかったが、今でも怒りがこみあげてきます」と次々に発言され、参加者に感銘を与えた。（高木）

追悼集会での劇

落合重信先生を悼む

私たちのこの会の代表であられた落合先生が、二月一五日、八二歳でその生涯を終えられた。

神戸電鉄の敷設工事にたずさわったのは、多分全員が朝鮮人労働者であり、その工事は現代版の奴隷労働でなされたので、一三名もの犠牲者（もちろん全員が朝鮮人）がでたことに、一学者として非常に心を痛まれ、歴史的事実が埋もれ去られることを心配して、当会の代表に心よくなって下さった。その頃にすでに発病していたとは私たちはつゆに知りませんでした。

代表になられた先生は、身体にムチ打ちつつ新たな資料の発掘、会の運営、神戸電鉄との交渉などの活動を精力的になさいました。

先生は、このように社会活動家として良心を持って在日朝鮮人問題にたずさわったばかりでなく、歴史学者としても在日朝鮮人の足跡を証す研究においても非常に大きな業績を残されました。

私ごとですいませんが、私が先生を出会うようになったのは、神戸市立中央図書館でした。かれこれ、もう三〇年ほどになります。

先生に直接お会いし、教えを乞うようになったのは、「4・24教育闘争」の資料を探している時でした。先生は、この在日朝鮮人たちの壮絶な闘いを、日本人、日本の行政、司法側の資料を丹念に集めて発表しました。その諸資料は、私のこの闘いについての調査において大変大きな重みを持ったばかりでなく、先生とのこの件についての議論は、私の目を大きく見開かせるものになりました。

このような関係でも、私が「落合学校」の一生徒になれたことを非常な栄光と思っています。

先生は亡くなられましたが、先生の残された志、業績は高貴なものです。私はもちろん、当会のメンバーも先生がなしえなかったこと、特に一三名の犠牲者の追悼碑を建てるため全力を尽すことが、先生へのお悔みになることと思い頑張ることを誓います。

一九九五年三月三一日

金慶海

1995年2月16日 神戸新聞

郷土史研究 地名を収集
落合重信氏 死去

神戸史学会代表で郷土史家の落合重信（おちあい・しげのぶ）さんが十五日午後零時五分、肝臓がんのため神戸市西区学園東町一ノ一ノ一〇一ノ七〇一、長女門脇桜子さん方で亡くなった。八十二歳だった。

三重県出身。葬儀は十七日午後一時から同町一ノ一ノ一〇一、「エルタウン学園1」の集会室で。喪主は長男史生（ふみお）氏。

郷土史研究に尽くし、絶滅寸前の兵庫県内の小字名収集に情熱を傾けた。阪神大震災で同市長田区重池町の自宅が壊れ、長女宅に身を寄せていた。

成文慶氏を偲んで

一九九五年一月一七日、午前五時四六分、マグニチュード7・2の兵庫県南部地震は、五、五〇〇余名の尊い命を奪いさりました。

当会の会員の方々も大小の差こそあれ、何らかの被害を受けられたことと考えます。

この度、追悼する会発足当初より呼びかけ人として、また事務局員であられた成文慶氏が震災の犠牲にあわれ亡くなられました。

成文慶氏は、兵庫県朝鮮人強制連行真相調査団の事務局長として、私欲をすて、南北の差異を乗り越え、民族のために真の歴史を調査検証してこられ、追悼する会においても穏和でやさしい中にも常に原点をふまえ、事務局員を指導して下さいました。

昨年、八月二八日の追悼集会の謝辞の一節では、「過去の朝鮮と日本の歴史から学び、同じ過去をくり返さず、人々が自主的で平和な生活が、いとなまれなければならない」と訴えられていました。

思い半ばで震災のため犠牲になられた在日同胞一三〇余名の方々と共に亡くなられた成文慶氏の意思を私達は心に刻み、追悼碑の建設を実現させることを誓い、成文慶氏をはじめ全ての犠牲者のご冥福をお祈りいたします。

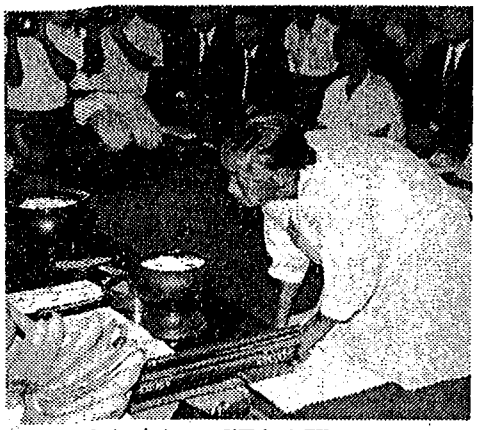
一九九五年五月一日

李　相　泰

朝鮮人労働者の遺族 初めて追悼集会参加

昭和初期の神鉄栗生線工事事故

94.8.29 朝日



焼香台に向かって深々と頭を下げる遺族の金順牙さん＝神戸市北区の興隆寺で

昭和初期に神戸電鉄栗生線の敷設工事で事故死した朝鮮人労働者の遺族らが、市民団体の招きで初めて現地を訪れ、二十八日、神戸市北区山田町の興隆寺で開かれた追悼集会に出席した。

同工事現場には、千二百人以上の朝鮮人労働者が働いていたとされる。一九二八年一月の東山トンネル事故、三六年十一月の藍那トンネル事故などで、少なくとも十三人が事故死した。当時の状況を調べている「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」（落合重信代表）が、韓国で暮らしている遺族らを捜して招待した。

来日したのは、父と兄を失った金順牙（キム・スナ）さん（七九）、義父を失った尹福祚（ユン・ボクチョ）さん（六三）ら四人で、焼香台に向かって深々と頭を下げた。尹さんは「義父は深夜の二時ごろに落盤に巻き込まれたのだと、今になって初めて知りました。過去のことと片付けず、起こったことは忘れないでほしい」と、目頭をぬぐっていた。

「子会社の請け負った工事」としてきた神戸電鉄も、同寺にある自社の過去帳に犠牲者らの名を記載することに決めた。

1994年8月29日　朝日新聞

1994年8月28日 神戸新聞

父よ兄よ…60年ぶり供養に号泣

戦前の神鉄敷設工事

酷使され、異国で事故死の朝鮮人

遺族が初来日し慰霊

市民団体の調査で判明 「追悼の印残して」

昭和初め、神戸市北部での鉄道敷設工事で事故死した朝鮮人労働者の遺族四人が、約六十年ぶりに韓国から初来日し、二十七日、市内の事故現場を訪れて、犠牲者を供養した。遺族らは「恨んでも恨み切れない」「追悼の印を残してほしい」と、異国の地で無念の死を遂げた肉親を思って泣いた。

一九三六年(昭和十一年)の同市北区、三木電鉄(現神戸電鉄)藍那トンネルで父と兄を亡くした金順牙さん(六〇)=いずれも慶尚南道固城郡。一九二八年(昭和三年)の同市兵庫区、神有電鉄(同)東山トンネルで義父を亡くした尹福祚さん(六二)=慶尚南道蔚山郡。

「お父さん、お兄さん…」と事故死した肉親に呼び掛ける遺族=神戸市北区山田町、神鉄藍那トンネル

神戸の市民グループ「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」(落合重信代表)の調査で、遺族が韓国内にいることが分かり、六十年ぶりに現地での供養が実現した。

同会によると、鉄道の神戸・湊川から有馬温泉や三木までの敷設は一九二七、二八年と三六、三七年に行われた。急こう配の続く難工事で、多くの朝鮮人労働者が低賃金で従事したが、少なくとも十三人が死亡。戦時中の強制連行より前に、朝鮮人が劣悪な労働条件下で働かされたことを裏付けている。

この日午後、四人は同会メンバーの案内で、東山、藍那トンネルを訪問。藍那トンネル前で、順牙さんらは花束をささげると「お父さん、お兄さん」と泣き伏した。事故当時、二十一歳だった順牙さんは「父と兄を一度に亡くして、私たち家族は言い様のない苦しみを強いられた。何か(追悼の)印を残して、六十年の間、胸に刺さったままのクギを取ってほしい」と訴えた。

また尹福祚さんは「お父さんが、日本のどこで死んだかも知らされていなかった。恨んでも恨み切れない」と話した。

二十八日は、同市北区の大池聖天興隆寺で同会による追悼式が行われる。神戸電鉄側は事故の犠牲となった朝鮮人十三人を初めて同寺の過去帳に載せて、弔意を表す。

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会・ニュースNo.5

95年11月1日発行〈100円〉

〒657 神戸市灘区山田町三ー一ー一 神戸学生青年センター内
電話 〇七八（八五一）三七六〇／FAX（八二一）五八七八
郵便振替〈〇一一一〇ー九ー四一二四三 追悼する会〉

藍那トンネル事故60周年（96年11月）に追悼碑を！
600万円の募金活動を開始します
59周年の追悼集会（11月26日〈日〉）を行ないます

「戦後50年」の今年、日本の侵略歴史が改めて問い直されています。そして侵略戦争の犠牲となった方々への戦後補償がいまだ為されていないことが、クローズアップされています。

「追悼する会」は93年7月の発足以来、一九二〇年代、三〇年代に神戸電鉄敷設工事の過程で犠牲となった朝鮮人の調査と追悼の活動を継続してきました。これまでの調査で藍那トンネルの落盤事故等で13名の朝鮮人が死亡したことが確認されています。昨年8月には、調査の過程で明かとなった犠牲者の遺族4名を韓国より招待して追悼会を催すことができました。

「追悼する会」は去る5月26日の集まりで、今年二月に亡くなられた落合重信代表に代わって新しく徳富幹生代表を選出いたしました。阪神大震災の影響で計画が遅れていますが、6名の犠牲者を出した一九三六年11月25日の藍那トンネル事故から60周年の96年11月には、追悼碑を完成させたいと思います。六〇〇万円を目標に追悼碑建立のための募金活動も開始します。ご協力をよろしくお願いします。

来る11月26日には、藍那トンネルの現場で左記のとおり追悼集会を行ないます。ご参加下さいますようご案内いたします。

神戸電鉄藍那トンネル事故59周年・追悼集会

- 日時　11月26日（日）午前11時
- 会場　神戸電鉄藍那トンネル前
  （神戸電鉄藍那駅より西徒歩10分）
- 主催　神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

追悼碑建立のための600万円募金にご協力を！

- 一口　5、000円
- 送金方法
  郵便振替〈01110-9-41243 追悼する会〉

鈴蘭の丘に慟哭を聞く

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を
調査し追悼する会・代表　徳富　幹生

落合重信先生のあとを受けて、神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会の代表を仰せつかりました徳富です。

先日、映画「エイジアン・ブルー・浮島丸サコン」を観ました。日本敗戦直後の一九四五年八月二四日に謎の爆沈をとげた浮島丸の、その謎を追う映画ではありません。日本人の手によってつくられたこの作品は、諸氏がパンフレットにも書いているように、朝鮮(人)を通して、アジアへの日本による植民地支配と侵略戦争の加害責任を静かに、しかも詩情豊かに語りかけて感動的です。またさりげなく、在日を現在に生きる朝鮮人の苦悩や問題まで描いてくれます。わたくしにとって最も印象が深かったのは、劇の舞台回しの役割と、人間としての良心に従って命がけでしかしひっそりと生き続ける詩人高沢伯雲の設定です。

戦前のたとえば冬、極寒の下北半島。連行されて奴隷の労働を強制されていた朝鮮人と伯雲が生活を共にさせられたのは、家を離れ、家族と別れ、拷問にも屈せず徴兵拒否を貫いたからです。わたくしなどとてもできるところではありません。戦後は、理不尽な死に方殺され方をした人々、とりわけ浮島丸の犠牲となった多数朝鮮人に対し、鎮魂を祈るだけでは癒されぬ心情につき動かされた巡礼の旅の生涯の果て「終(つい)のすみか」と定めた舞鶴。毎日、灯台に登ると舞鶴の海を望見しつつ伯雲はいつもこころの中でつぶやくのです。

俺を眠らせない奴がいる
蔑まれ
殴られ
踏まれ
口を塞がれ
耳を閉ざされ
それでも聞こえてくる声がある
絶え間なく
俺の肩を揺すり
俺の魂をひっぱたいて
俺を眠らせない奴
お前は一体誰だ
お前は一体誰だ

そして現実の舞鶴には、はるか釜山(プサン)を望んで永久にもの言わぬ「殉難の碑」が建っています。赤ん坊を抱え血がにじむばかりに口をかみしめて立つチョゴリ姿の若いオモニ像の足元には、祖国にたどりつけぬまま海中に消え去るであろうおのれの無念を、天に地に山に海に向かって叫ぶ人々の像。

浮島丸が沈むのを目撃した舞鶴の人々は、誰言うこともなく舟を漕ぎだし救助の手をさしのべます。その同じ舞鶴の人々はいろいろな困難にぶつかりながらなんとか資金を集めて一九七八年「殉難の碑」を建立しました。以後、毎年八月二四日、舞鶴市民を構成員とする実行委員会は追悼集会を開催します。地元在日関係者や韓国からの直接参加者が年々増えているとか。舞鶴といえば、初老以上の日本人には有名な「岸壁の母」の舞台でもあるんですよね。

ところで、一九二〇年代の後半、昭和の初期に兵庫県には凡そ六千名の朝鮮人が在住し、職を求めておりました。日本の植民地統治によって朝鮮人民衆が祖国を離れざるを得なくなるといった矛盾が、結果として兵庫県にも先駆的に顕在化していたのではないでしょうか。

現在の神戸市北区。神戸市でいちばん広い区域のほとんどを山地が占める中に丹上山もあり、「丹」即ち辰砂(しんしゃ)発掘のために強制連行された朝

鮮人の血と汗と涙が流されたことが最近知られています。そしてこの区域には行政の中枢機関をかかえた鈴蘭台という美しい名前を持つ町があります。

半世紀以上も前、神戸電鉄の前身、神有電鉄と三木電鉄はそれぞれ賃金等の差別待遇を前提とした朝鮮人の労働力に頼って線路敷設工事を行います。山岳路線の難工事を強行することによって無念、無惨の死を遂げた朝鮮人労働者は現在判明している限りで一三名。うち六名もの死を生みだしたのは当時の武庫郡山田村藍那第一工区藍那隧道東抗口の工事。一九三六年一一月二五日のことです。この事故を報じた神戸新聞の記事は七段ぶち抜きです。見出しの文字が悲しいくらいに大きい。

「惨憺・眼を蔽う現場
崩壊した三木電藍那トンネル
石塊と泥土の中から
六死體を掘出す
重軽傷五人は兵庫病院へ収容」

来年一九九六年はその六〇周年にあたります。当「追悼する会」を中心とする多くの人々の粘り強い働きかけがあって、神戸電鉄は昨年一三名が自社工事の犠牲者であることを認めました。それなりの誠意を評価することにしましょう。それでも昨年、一二名の祭事(チェサ)のために韓国から来神された遺家族の方々の慟哭は、今もわたくしの耳をたたきます。

わたくしたちには仕事が残っています。舞鶴の人々からも学んで、事実のさらなる調査と「追悼碑」の建立をぜひとも実現しなければなりません。広報と多方面への協力、援助の依頼など大変ですが、みんなで力を合わせていきたいものです。わたくしたちを襲った大震災というあまりにも大きな困難の経験は、一方でわたくしたちに「共に生きる」ことの素晴らしさと希望を教えてくれました。「共に生きる」ことが当たり前の日常になる日まで少しずつでもできることをやっていきましょう。

一九五九年九月二五日

「追悼する会」・会計報告　1993.7.1～1995.10.31

収入		支出	
賛同金	1,425,370	事務費（※①）	347,725
カンパ	608,000	資料集、パネル製作費	186,198
その他	263,765	遺族招待関係費	689,170
（資料集売上、香典等）		その他※②	431,338
		小　計	1,654,431
		残　金	642,704
		（内訳　郵便振替 615,895 / 現金 26,809）	
合　計	2,297,135	合　計	2,297,135

※①　切手、封筒、コピー代金等
※②　会場費、通行料、追悼式費用、見舞金、他団体へのカンパ、香典、名刺代、郵便振替手数料等

１９９５年１１月２日　「追悼する会」会計担当　西　咸子

震災後に、徳富幹生新代表が神戸電鉄本社を訪問

5月25日の集りで選出された新代表の徳富先生の就任挨拶を兼ね、神戸電鉄本社(谷上)に7月13日飛田さんと李相泰の三名で行ってきました。

本年8月の神戸電鉄恒例の法要に「追悼する会」が参加する事と、今年11月ごろに予定していた「追悼碑建立」を、来年11月に延ばし、神戸市に対し連名で公園の一部を借りる「要望書」を出す事を話し合いました。

意外にも法要に参加する事に対して、神戸電鉄側は難色を示し「今年度の犠牲者の遺族に限る」とし、追悼する会としては「神戸電鉄敷設工事で判明した13名の犠牲者が昨年始めて過去帳に記載され、今年は初盆に当たる」と、約40分に渡る話し合いを持ったが、平行線のまま、どちらにしても「法要の日時が決まれば連絡をして貰う」と言う事であったが、後日の連絡では「法要の日時すらも知らせられない」との事であった。

何をかたくなに、「追悼する会」の参加を拒否するのか理解に苦しむ、何か他に知られては困るような事でもあるのかと勘ぐりたくなる。

本題である、神戸市に対する「要望書」の件に対しては（どちらかと言うとこの件のほうが、難色を示すのでは無いかと考えていたのだが）先の件で時間を取り疲れていたのか「要望書」の原案が出来れば、その方向で考えて行きましょう、と本来の目的が合意され一安心であった。

（李相泰記）

神戸市の市民公園課を訪問

9月26日火曜日、私たち事務局の数名は、神戸市に対して追悼碑を建てるために、公園などの土地を貸してもらえれば…という意図の下、神戸市土木局の公園緑地部管理課市民公園係を訪ねました。変にかしこまってというよりは自然な会話を交えながらの話し合いでした。

まず、飛田さんが事件の内容とこれまでの経過、神鉄側の対応、そして私たちの趣旨といったものを簡単に（特に神鉄の対応についてはいつものように皮肉を混ぜることも忘れずに）提起していきました。「神戸市のどこかの公園に追悼碑を建てさせて下さい！」という言葉に対しての相手側の対応は、「公園に置く記念碑は基本的に教養施設でなくてはならない」とのこと。この場所でなくてはならないという歴史的必然性があり、かつ景観も優れたものであることが前提条件。また、宗教や思想などが反映されたものはお断わり…などと、制限が様々あることを初めにおっしゃられておりました。

「追悼する会」側が、神戸電鉄が近くを通っていることや、朝鮮人労働者が工事をしている唯一の新聞写真の例を挙げ、湊川公園の特殊性を挙げると共に、教養施設ともなり得ることなどを意見として述べていきますと、向こうは公園施設と見るかどうか、どんな形態・内容か、他の場所では駄目なのかということを、もっと具体的に論議してからではないと何も言えないとのことでした。金銭面や他の在日団体などのことでも心配ないと言うことを理解して頂き、最終的に「とりあえずは論議してみますから、写真などの情報をまとめて送ってください。ただしそちら側でも（公園以外の）場所などを継続して探して下さいよ。」という市側の意見と、「こちらも時間にゆとりがあるわけではないので、常に経過を教えてもらいたい」という事務局側の意見で一段落しました。

20分ほどの話でしたが、いまいち先が見えなかった事務局内での論議に具体的方向性が見えたような気がしました。私たちとしては最高の案としている神戸市内の公園に碑を建てるという可能性が少し大きくなったような気がします。どういう結果になるのかはわかりませんが、私たち自身もベストを尽くしていければと思います。

（林昌利記）

※「追悼する会」事務局会議は、11月は追悼集会終了後に、12月は21日に忘年会をかねて行ないます（会場未定、Tel下さい）。もちろんオープンな会議です。一度覗いてみて下さい。